

茨城大学学生生活実態調査(Ⅱ) 報告書

2009年度
中央学生委員会
学生生活実態調査WG

2011年7月

まえがき

このたび、第2回「茨城大学学生生活実態調査」の報告書が完成しました。「茨城大学学生生活実態調査」は、学生生活にかかわる調査内容を3つに分割し、3回の調査を行うことで、茨城大学学部生の大学生活の様々な面を明らかにしようとする企画です。第2回目である今回調査のテーマは学生の経済生活であり、学生の収入やアルバイトの状況などを調査しました。

昨今の経済状況から、学生の経済生活も厳しさを増す中で、大学としても、授業料減免措置や奨学金などをおとした学生へのよりの確な経済的支援なども望まれています。そのためにも、学生の経済状態の的確な把握が必要なところですが、これがなかなか容易ではありません。今回の調査では、それに挑んでみました。もちろんアンケート調査ですから、なかなか正確な数字はつかみ難いのですが、経済状態の幾分の傾向性はつかめたのではないかと思います。

今回の報告書では、単に調査結果の羅列というのではなく、幾分踏み込んだ分析も行っています。本報告書によって学生の実態を把握し、われわれ教職員が、日常的な学生指導と助言に活かし、また学生がより充実したキャンパスライフが送れるよう、施策の提言等につなげていければと期待しています。

調査と報告書作成は、中央学生委員会学生生活実態調査WGが担当しました。WGの様々な事情で、報告書の完成が大幅に遅れましたことをお詫びするとともに、調査にご協力いただいた教職員の方々、アンケートに答えてくれた学生諸君に厚くお礼申し上げます。

副学長（教育担当）

田代尚弘

目 次

調査の目的	1
調査実施の概要	1
回収状況	1
回答者の構成	2
I 茨城大学生の経済状態	
1 収入項目間の関係	4
親の収入、奨学金、仕送り・小遣い、アルバイト	
2 学部別にみた茨城大学生の経済状態	10
家族の収入、家族収入の背景、仕送り・小遣い、奨学金、アルバイト月収額、 アルバイト時間、アルバイト職種、アルバイトの必要性、アルバイト収入の貯金 目的、その他の収入(兄弟・親戚などからの援助等)、月当たり生活費合計、住居費、 パソコンの保有状況	
II アルバイトと学業	
1 アルバイトと学業成績	25
2 学部別にみた茨城大学生のアルバイトと学業	32
アルバイトの必要性、アルバイト時間、アルバイトと勉学の両立、勉学のため の読書、授業出席状況、単位取得率、成績評価	
III 当面の学内課題に関する質問	
1 授業料免除制度の利用と制度への意見	40
授業料免除制度の利用状況、授業料免除申請をしなかった理由、授業料免除制度 についての意見	
2 学生寮入寮希望	43
3 自動車通学と駐車場	44
IV 大学へのサービス要望	47

● 調査の目的

このアンケート調査は茨城大学学生の生活等の実態を把握し、本学における学生支援を充実させる参考資料とするために実施した。

茨城大学学生生活実態調査の2回目となる今回は、学生生活のうち、経済生活にかかわる実態を明らかにすることに主眼をおいた。経済低迷が長く続く中で、景気の悪化時には授業料納付猶予申請が急増するなど、学生の経済生活面は厳しい状況にある。学生の経済生活の状態を把握することはきわめて重要な課題となっていた。

大学にとって学生の経済生活面にかかわって明らかにしなくてはならないいくつかの課題がある。たとえば、学生の生活経済水準はどれくらいか、奨学金や授業料減免措置の規模や仕組みは経済面から来る学業の障害、たとえば長時間のアルバイトを必要とすることによって勉学の時間が取られてしまうという事態、をどの程度除去しているのか。さらにはまた、アルバイトは実際に勉学の妨げになっているのか、どの程度か。今回の調査ではこうした課題を意識しながら調査票を組み立てた。

● 調査実施の概要

調査方法：マークシートを用いた自記式アンケート調査（調査票は本調査報告書末尾）

調査対象：正規留学生を含む茨城大学学部学生全員

調査期間：2009年12月中の授業期間

配布回収方法：各学部とも、2年生以上各学年について学生全員を重複なく調査対象とできる授業・演習を選択し、授業の際に授業担当教員を通じて調査票・マークシートを配布した。1年生については、教養総合英語クラスで、全学部の1年生全員を重複なく調査対象とした。マークシートの回収は、教員が授業時間内に回収、時間中の回収が難しい場合は、各学部所定の回収ボックスに学生各自が投函する方法をとった。

報告書の作成：当初、学生生活実態調査WGの学部選出委員が分担して執筆する予定であったが、集計作業が大幅に遅れたこと等のため、WG座長の神谷拓平（人文学部）が単独で報告書の執筆にあたった。報告書完成が大幅に遅れたことを、調査に協力してくれた学生諸君、また関係の方々に深くお詫び申し上げたい。

● 回収状況

有効回収票の数は右表のとおりである。回答率は全学で57%、学部別には52%から73%になっている。

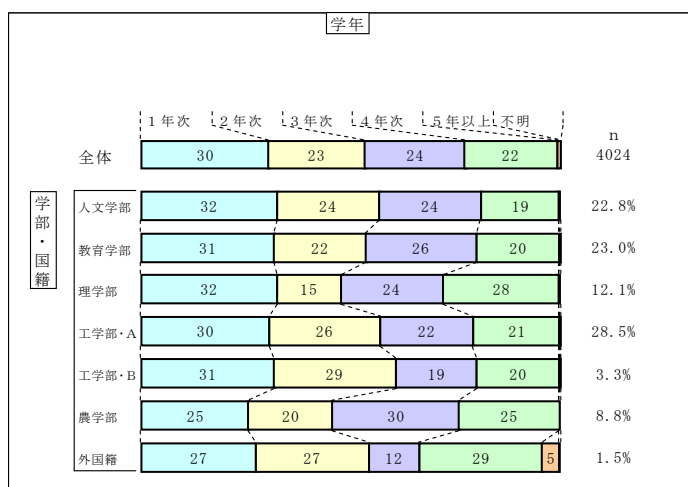
調査にご協力いただいた授業担当の先生方、また回答を寄せてくれた多くの学生諸君に感謝したい。

アンケート回答数

	有効票	学生数	回収率
[全学]	4025	7075	56.9
人文学部	912	1759	51.8
教育学部	923	1531	60.3
理学部	486	900	54.0
工学部・A	1144	2190	52.2
工学部・B	132	180	73.3
農学部	353	525	67.2
学部不明	16		

* 学生数は2009年10月在籍数から休学中のものを減じた数である

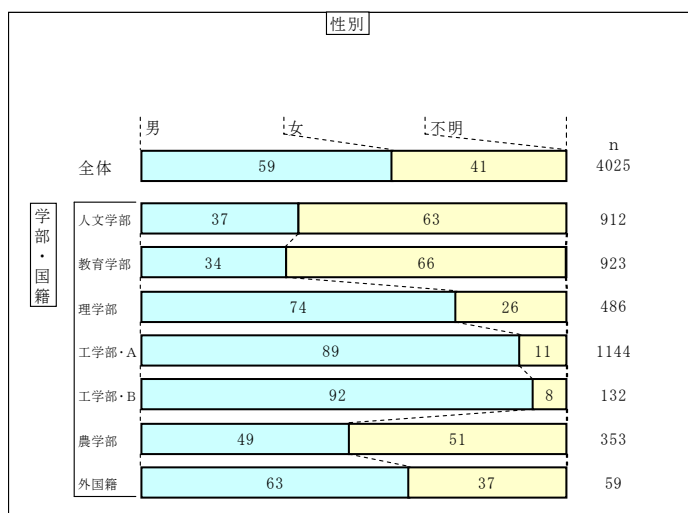
● 回答者の構成



学年構成

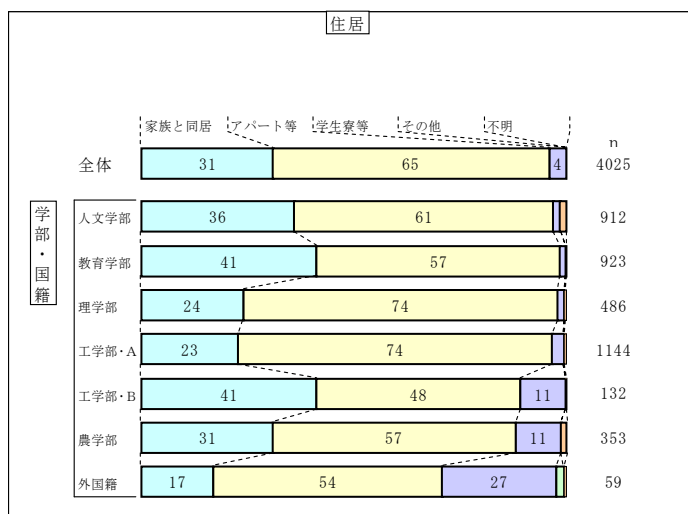
全体では1年生が3割、他の各学年は、2割前半となっており、1年生の回答率がやや高い。理学部・農学部は2年生の回答率がやや低く、外国籍学生では3年生の回答率がかなり低くなっている。

なお、回答者中の外国籍学生59人の学部構成は、人文学部15%、教育学部22%、理学部5%、工学部Aコース47%、Bコース3%、農学部7%である。



性別構成

全体では男6割、女4割であったが、文系は男が3分の1に過ぎず、女が3分の2をしめる。逆に理系の多くは男が7~9割と圧倒的に男が多い。ただ、農学部では男女がまさに半々となっている。外国籍学生の回答者は男が3分の2、女が3分の1となっている。



住居形態

「家族と同居」いわゆる自宅通学生が全体の3割で、7割が自宅外通学生である。自宅外通学生のほとんどは「アパート・マンション・借家・借間」で、「学生寮・国際交流会館」入寮者は4%にすぎない。

I 茨城大学生の経済状態

1 収入項目間の関係 … 親の収入、奨学金、仕送り・小遣い、アルバイト

今回の学生生活実態調査のほとんどの設問は経済状態を把握するためのものであり、この報告書では、このあと、いわば定石どおり、各設問項目ごとに主として学部別の集計結果を紹介していくことになる。しかしその前に、経済状態把握の柱となる収入額に関する設問から分かる収入項目間の関係を概括しておきたい。

収入額に関する設問としては、問 11～問 14 で「親からの仕送りや小遣いの有無」「奨学金の有無」「アルバイトの有無」「その他の援助の有無」を確認し、ついで次の質問をした。

[問 15] あなたの生活費は月々どのくらいですか。授業料等大学納付金や家賃の分を除いた額を、収入源別に教えてください。本年前学期中(4月～7月末)のひと月当たり平均でお答えください。

[「親からの仕送り、または親からもらうお金」「奨学金」「アルバイト」「その他(兄弟や親戚などからの援助等)」別に金額を記入]

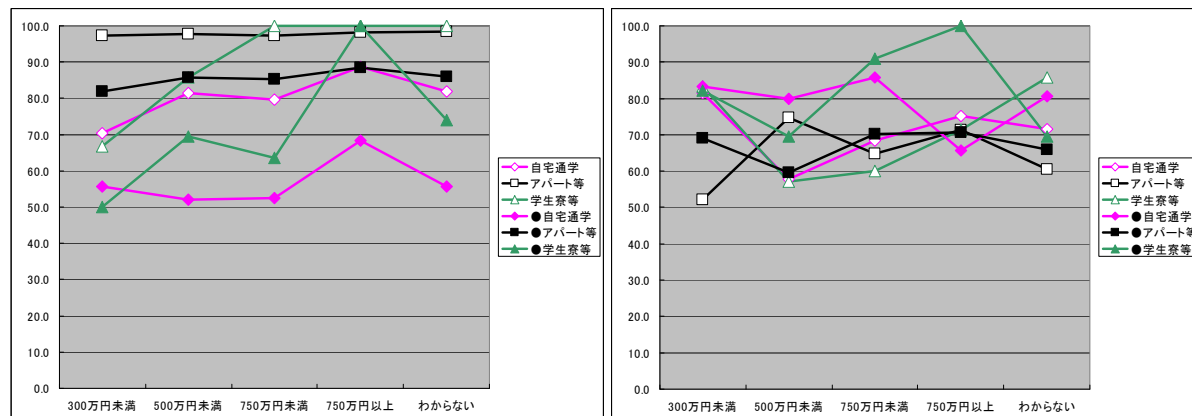
[問 16] あなたの家族の家計年間収入はどれくらいですか。あなたが承知しているおおよその額でも結構です。ご両親とも働いている場合は、ご両親の収入を合計した年間収入をお答えください。ご両親以外の方の収入は「家に入れている」分だけ合算してください。外貨での収入の場合には、日本円に換算してください。

[年収階層を「わからない」を含めた 10 の選択肢から選択]

これらの設問の結果から、親の収入と、親からの仕送りや小遣い、奨学金、アルバイトとの関係のみておく。なお、この項では攪乱要因を減らすために日本国籍学生のみを分析対象とし、なおかつ工学部 B コース学生をはずしている。

図 I-1 は、奨学金の有無(問 12)によって、親からの仕送り・小遣いがあった者の割合(問 11)、アルバイトをした者の割合(問 13)がどう違うかをみたものである。

図 I-1 親からの仕送り・小遣いがあった者(グラフ左)・アルバイトをした者(グラフ右)



注：グラフの塗りつぶしマーカー（および凡例の●）は奨学金ありを、白抜きマーカーは奨学金なしを示している

グラフでは、親の収入階層¹および居住形態(自宅通学・アパート・学生寮)をコントロールして、奨学金の有無による比較ができるようにしてある。ここから分かることは、次の事柄である。まず親からの仕送り・小遣いについてみると(グラフ左)、同じ収入階層・居住形態の中で比べてみても、奨学金がある学生が親から仕送り・小遣いをもらっている割合は、奨学金がない学生に比べてかなり低い。自宅通学学生で20~30ポイント、アパート学生で10~15ポイント、親からお金をもらっている学生の割合が少ないのである。それに対し、アルバイトについてみると(グラフ右)、塗りつぶしマーカ―が白抜きマーカ―の上に出ている場合が多い。つまり、アルバイトをしている学生の割合は、親の収入階層等をコントロールしても、むしろ奨学金をもらっている学生の方に多いのである。

この結果は、奨学金が学生自身の経済的負担軽減よりも親の負担軽減により多く使われていることを示しているようにも見える。

金額面から確かめてみることにしよう。仕送り・小遣いの有無やアルバイトの有無から見えた傾向と同じ事柄が確認できるのか。

次頁の図I-2は各収入項目の平均値を、先の図と同様に住居形態、親の収入階層、そして奨学金の有無別に集計した結果を積上げ帯グラフに示したものである。つぎのような点を確認できる。

①**奨学金** 奨学金月額平均はだいたい5万~6万の範囲に分布している。そして、いずれの居住形態・親収入階層でも、奨学金が学生の収入の5割~6割を占めている。(学生寮・750万円以上)でかなり少ない額になっているが、対象者数がきわめて少なくなるとまた個別の事情が強く反映しているためである。

親の収入階層と奨学金額の関係では、いずれの住居形態の場合にも(300万円未満)層の奨学金額が他の層よりも大きいという点以上にはこれといった規則性は見られない。

居住形態との関係では、多くをしめる学生支援機構奨学金の支給額が、自宅通学生と自宅外通学生とで異なる標準金額を用いていることもあってか、自宅生よりも自宅外生(アパート等、学生寮等)の方がより高い奨学金額となっている。

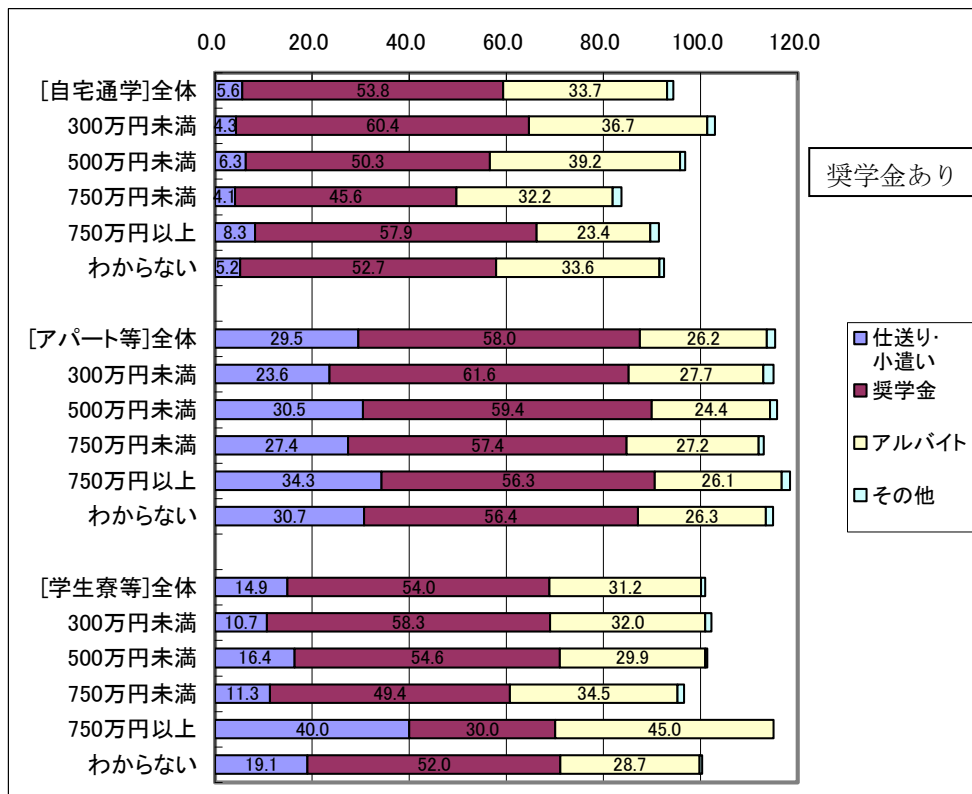
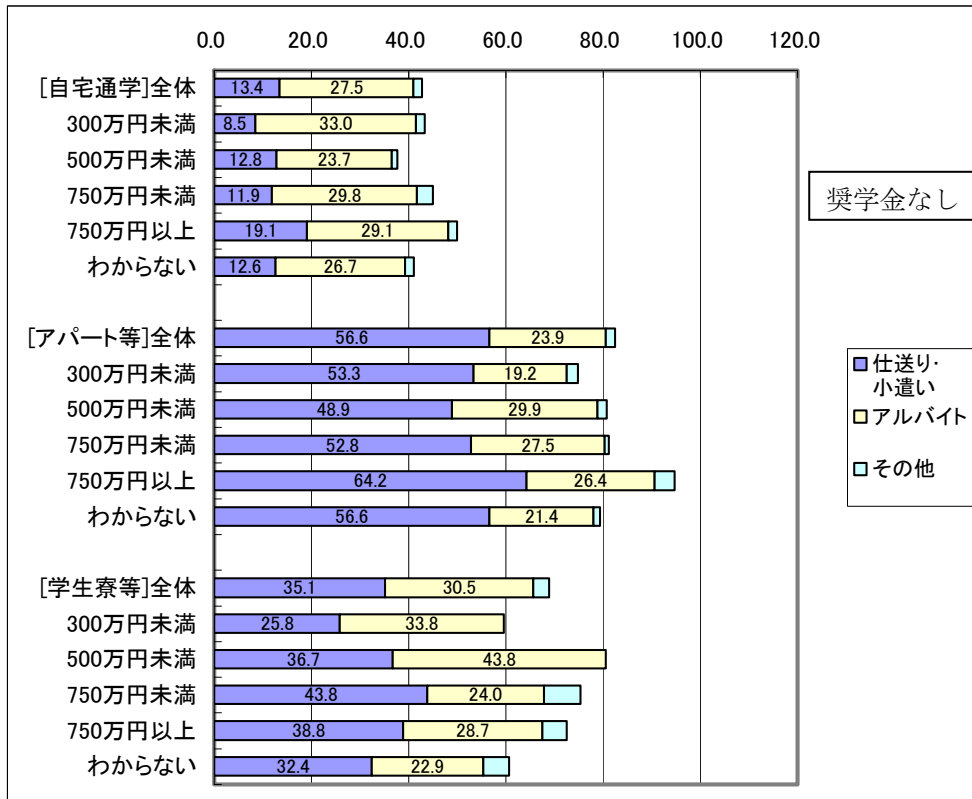
②**仕送り・小遣い** この5万~6万円の奨学金の有無によって大きく違ってくるのが、親からもらう仕送り・小遣いの額であることは、グラフから一目でわかる。いずれの住居形態でも、奨学金がある場合には奨学金がない者と比べて、小遣い額も仕送り額もおおよそ半分程度になっているように思われる。実際には、自宅通学の小遣いで奨学金非受給者の4割~5割程度、自宅外通学の仕送りで4割~6割程度に過ぎない。

親からもらうお金の額は、当然ながら自宅通学か自宅外通学かによって大きく異なる。奨学金がない場合にそのことは特にはっきりと現れ、自宅通学生が親からもらうお金は平

¹ 問16に対して4割の学生は親の収入が「わからない」と回答している。実際、ほとんどの学生は親の家計収入を正確には知っていない。ある程度それを知ることができるのは奨学金申請などをした場合であるが、その経験があっても、記憶が正確か、記憶に残っているのが実際の収入なのか、申請様式にのっとった控除後の所得なのかは明確でないようだ。したがって、その回答金額は少なめにあらわれたおおよその参考数値とみなさざるをえない。

図 I-2 学生生活費の収入源別平均額（住居・親の所得・奨学金有無別）

（月額 単位：千円）



均すると1万3千円程度、それに対して、アパート生では家賃を除いた額で5万7千円にもものぼる。学生寮生はこの両者の中間、3万5千円となっている。

これらの仕送り・小遣い額は、でこぼこがあってあまりはっきりしたものではないが、親の収入が大きくなると増加しているように見える。

③**アルバイト** 親からの仕送りや小遣いが、奨学金の有無によって大きく異なるのに対し、アルバイト収入は、ほぼ同水準を保っている。というより、むしろ奨学金受給者の方にアルバイト収入が多いようで、自宅通学生などは平均で6千円ほど奨学金のない者より多い。

奨学金の有無にかかわらず、また居住形態にかかわらず、アルバイト収入にあまり大きな差はなく、親の収入階層ともこれといった関連は見出せない。

④**収入項目間の諸関連** 以下、いずれも平均についてはなしだが、自宅通学生の奨学金はそれだけで、奨学金の無い自宅通学生の収入を上回っている。しかし、彼・彼女たちは奨学金のない学生を上回るアルバイト収入を得て、奨学金のない自宅生の倍に達する収入、奨学金のないアパート生を上回る収入を得ている。奨学金のある自宅通学生のアルバイトは、奨学金のないアパート生のそれを1万円ほど上回っている。収入が最も多いのは奨学金のあるアパート生だが、その収入は仕送りと奨学金だけで、奨学金のないアパート生の収入を上回る。だが彼・彼女たちは、さらに奨学金のないアパート生のアルバイト収入を上回るアルバイトをして、収入を上積みしている。

奨学金のない学生にとって、ある程度のアルバイトはやむをえない必要であろう。だが、住居形態をコントロールすると、奨学金を受けている学生が、奨学金のない学生を上回るアルバイトをしている。もう一度アパート生についてみると、奨学金があることによって、親からの仕送りを奨学金がない場合の半分に減らしても、奨学金と合わせて、奨学金のないアパート生の収入を上回る。しかしそれは、アルバイトを減らすことにはつながらない。むしろ、アルバイト収入は多くなっている。

奨学金は、親の収入をコントロールしても、親からの仕送りや小遣いをおよそ半分に減らし、学生のアルバイト収入を1割程度増やす作用があるようだ。アルバイト時間で見ると表I-1のようになっている。収入階層・住居形態別の15のセルのうち、奨学金なしが奨学金ありのアルバイト時間を上回っているのは、網掛けで示した4つのセルに過ぎない。

奨学金で経済的余裕は増大するものと考えられるのに、なぜアルバイトが増加するのか。

表 I-1 奨学金有無別アルバイト時間

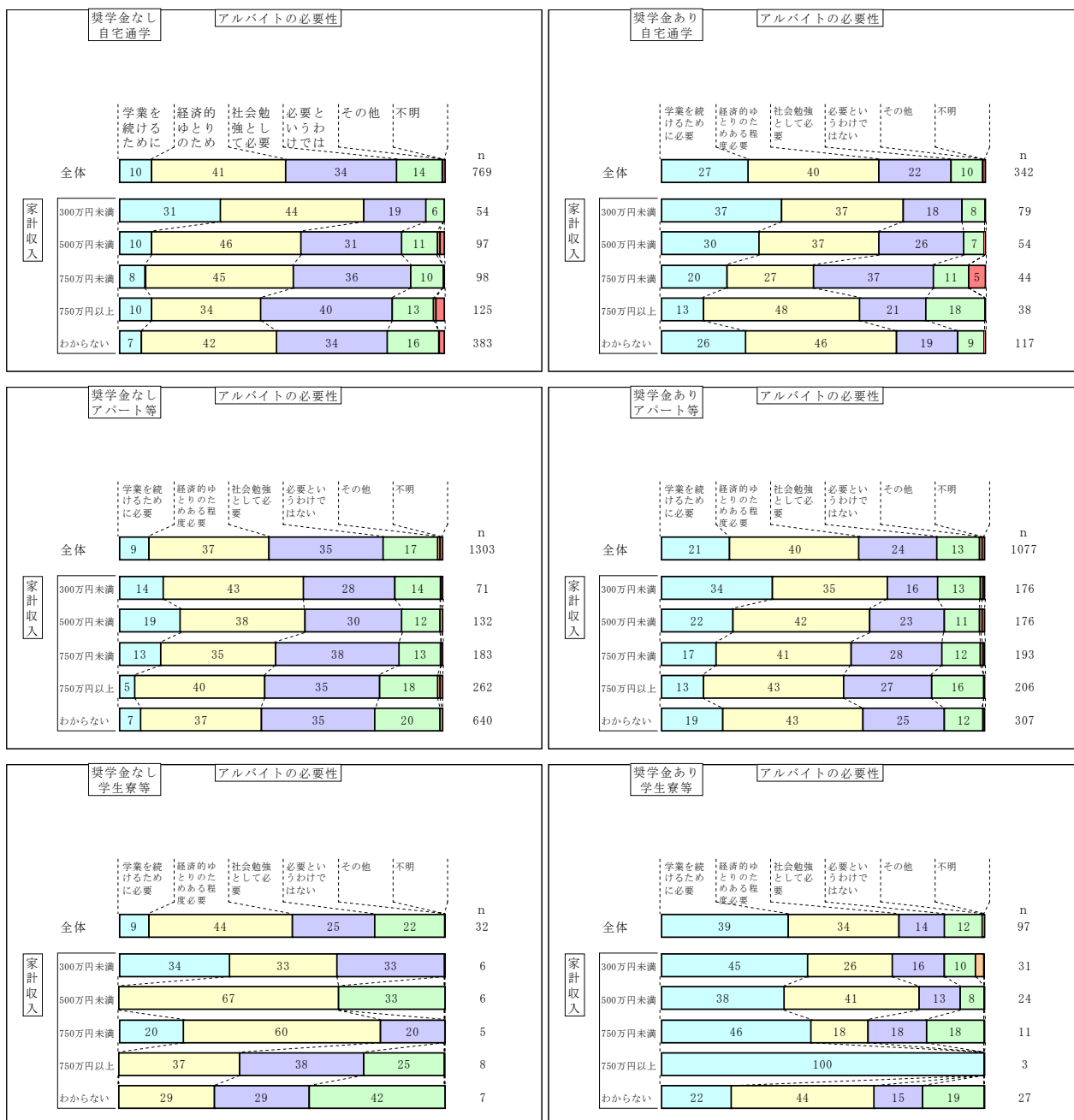
	奨学金なし			奨学金あり		
	自宅通学	アパート等	学生寮等	自宅通学	アパート等	学生寮等
全体	28.3	25.1	34.9	35.4	28.0	36.4
300万円未満	34.1	18.5	44.4	41.3	29.5	37.3
500万円未満	24.8	31.6	45.0	38.7	25.8	34.0
750万円未満	31.0	29.3	25.8	33.0	29.5	39.7
750万円以上	29.6	28.1	36.0	21.6	28.3	49.7
わからない	27.6	22.2	18.8	35.1	27.7	35.6

図 I-3 は、アルバイトの必要性を尋ねた問 24 の結果を奨学金の有無によって比較したものである。奨学金ありで「学業を続けるためにどうしても必要」という回答が、住居形態・親の収入階層をコントロールした全ての区分において、奨学金なしを上回っている。

図 I-3 奨学金の有無別にみたアルバイトの必要性

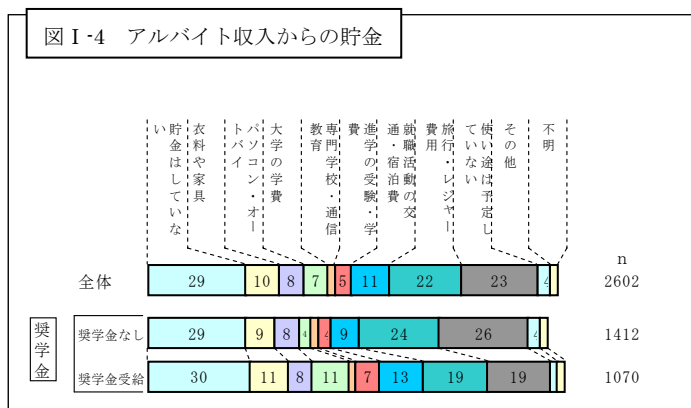
問 24 <全員にうかがいます> あなたは、自分の学生生活でアルバイトは必要と思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 学業を続けるために経済上、どうしても必要
2. 経済的ゆとりのために、ある程度必要
3. 社会勉強として必要と思う
4. どうしても必要というわけではない
5. その他（具体的にマークシート裏面に）

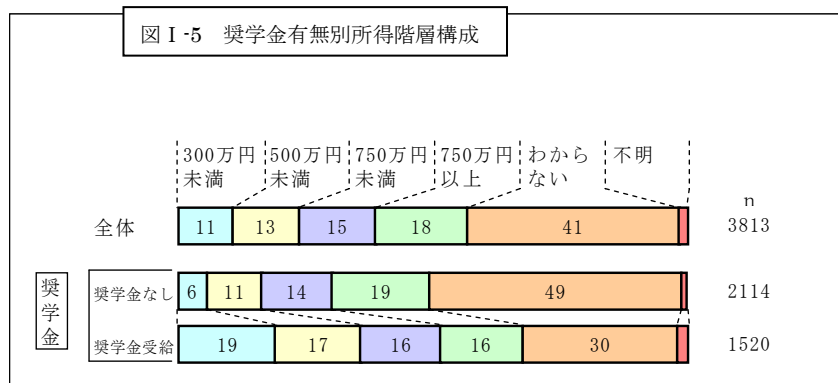


その差は全体的に見てけっして小さなものではない。奨学金なしでは、代わりに「社会勉強として必要と思う」が多くなっていて、学生アルバイトがこれだけ浸透している今日においても、やはり「学生の本分は勉学」ということなのか、学生にとってもアルバイトは何らかの理屈付けが必要なものと思われるようだ。そして、奨学金の受給資格は現実にはその支給によって経済的ゆとりをもたらしているにもかかわらず、経済的困難「アルバイトが経済的に必要」の「お墨付き」と受けとめられているのかもしれないことが、この調査結果からうかがえる。

アルバイトの量に影響を与えるいまひとつの要因がある。学費や自宅外通学生の場合の家賃を誰が負担しているかという問題である。学生の生活費収入源を聞いた問15においては、「授業料等や家賃の分を除いた額」を尋ね、問6では月々の家賃を聞いているのであるが、授業料や家賃を誰が負担しているのかを聞いていない。学生の経済状態を明らかにしようとする調査としては重大な欠陥であった。しかし、アルバイトをした学生に「アルバイト収入から貯金しているかどうか、何に使う予定の貯金か」を聞いた結果から、若干の手がかりを得ることができる。すなわち、奨学金なしよりも奨学金ありで、「大学の学費にあてる」(7%に対して11%)「就職活動の交通・宿泊費などにあてる」(9%に対して13%)が多いのである(図I-4)。これらの項目の全体に占める割合は大きくはないとはいえ、ここでも奨学金は親の負担の軽減になっている。



以上見たように、奨学金は親の負担を減らし、学生のアルバイトを増加させる作用を持っているようである。しかし、奨学金の機能がそれだけだと思っはならない。奨学金の第一の目的はいうまでもなく、経済的困難を抱える者に高等教育の機会を開くことである。図I-5は奨学金がない学生とある学生とで親の収入階層を対比している。このデータによって、奨学金が低所得層の子弟が大学教育を受けるチャンスを広げているということが証明されるわけではないが、明らかに所得が低い層により多く奨学金受給資格が与えられているということが分かる。



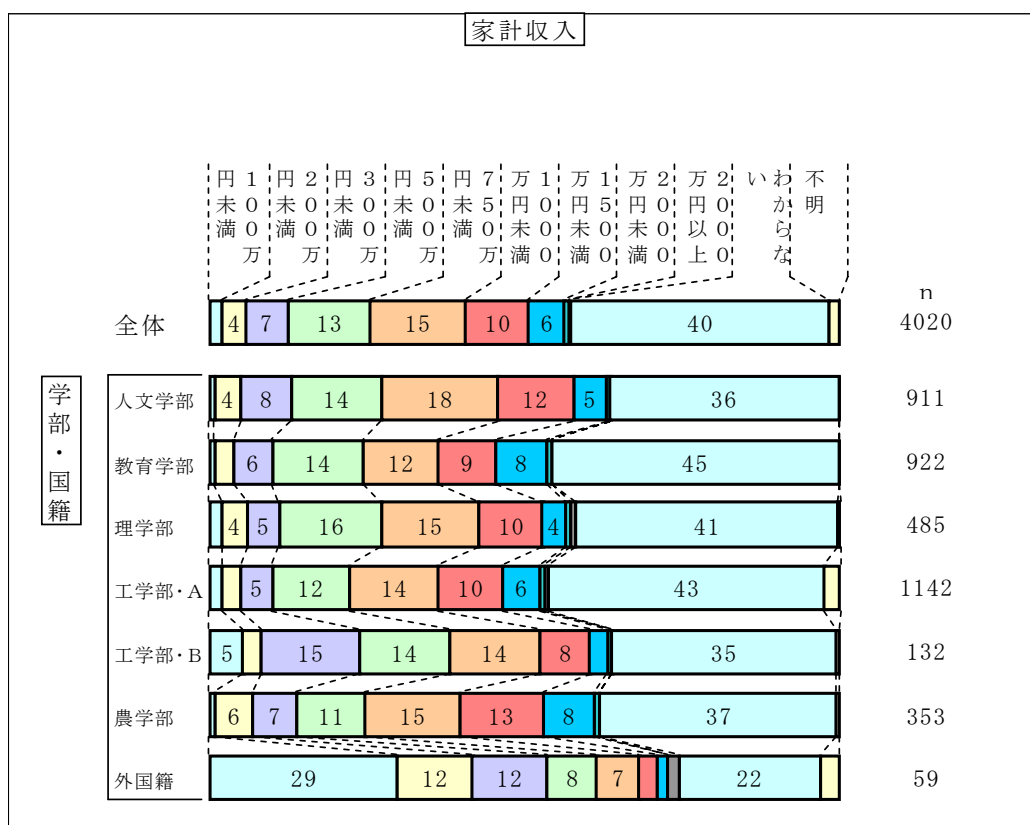
なお、これまでアルバイトの量を問題としてきたのは、一般に、過大なアルバイトは勉学に差し障りがあるのではないかとこの見方があるためである。この点については、II章の冒頭で検討することにした。

2 学部別にみた茨城大学生の経済状態

● 家族の収入

問 16 あなたの家族の家計年間収入はどれくらいですか。あなたが承知しているおおよその額でも結構です。ご両親とも働いている場合は、ご両親の収入を合計した年間収入をお答えください。ご両親以外の方の収入は「家に入れている」分だけ合算してください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100万円以上～200万円未満 |
| 3. 200万円以上～300万円未満 | 4. 300万円以上～500万円未満 |
| 5. 500万円以上～750万円未満 | 6. 750万円以上～1000万円未満 |
| 7. 1000万円以上～1500万円未満 | 8. 1500万円以上～2000万円未満 |
| 9. 2000万円以上 | 10. わからない |



脚注1(8頁)に記したように、ほとんどの学生は親の家計収入を正確には知っていない。回答金額はおそらく少なめに表れたおおよその参考数値とみなさざるをえない。

ともあれ、全学集計結果では、「わからない」40%のほか、収入額が小さい順に「300万円未満」以下の合計が12%、「(300万円以上)500万円未満」13%、「750万円未満」15%、「1000万円未満」10%、「1000万円以上」6%となっている。

学部間にあまり大きな差はないが、工学部Bコースについては「300万円未満」以下合計が24%にのぼり、コース設置趣旨に応じた特徴をみせている。外国籍学生については、永住者と留学生の区別がついていないが、55%が「300万円未満」以下である。

※ 以下、「学部・国籍」区分での集計は、学部・コース名では日本国籍の学生のみを、外国籍の学生は学部にかかわらず一括して「外国籍」として集計している。また、今回の調査では、外国籍学生について留学生と永住者との区別は把握していない。

● 家族収入の背景（この項は日本国籍の学生のみを集計を用いている）

前項にみた家族の収入の背景に関連するいくつかの指標を見ておこう。

〈主たる家計支持者[問 8]〉は工学部Bコースを除くいずれの学部でも87%～90%が「父」となっている。工学部Bコースではこの割合がわずかに低く84%であった。

〈共働き[問 16A]〉の割合が最も高いのは教育学部の69%、最も低いのは工学部Bコースの60%で、他の学部は65～68%であった。

なお、家計支持者と共働きかをクロスしてみると、回答者全体では、〈家計支持者父・共働き〉が62%、〈母・共働き〉4%、〈父・父のみ働く〉25%、〈母・母のみ〉5%であった。あとの2つのカテゴリーには、離縁もしくは死別の場合がある程度含まれていよう。主たる家計支持者が父母のいずれでもないケースは1.4%であった。

〈主たる家計支持者の就業形態 [問 9]〉は全体では、「民間企業雇用者」が59%、「公務員」が23%、「自営業」

15%となっているが、教育学部・理学部では「公務員」がやや多く、工学部（両コース）では「民間企業雇用者」が多くなっている。また農学部では「自営業」がやや多い。

	自営業・ 家族従業者	民間企業 雇用者	官公署雇 用者（公 務員）	無職	不明	回答者 数
全体	15.3	58.6	23.0	2.0	1.0	4025
人文	15.4	59.3	23.2	1.6	0.5	923
教育	13.9	56.0	27.0	2.2	0.9	941
理学部	16.9	53.1	26.3	2.0	1.6	490
工学A	14.0	64.2	19.0	1.9	1.0	1175
工学B	15.8	66.2	12.8	3.8	1.5	134
農学部	20.7	50.7	24.6	2.5	1.4	357

〈主たる家計支持者の職種[問 10]〉についてみると、全体では目立って多いのが「専門的・技術的職業」と「管理的職業」（いずれも23%）で、この2職種だけで46%と半数近い。

「専門的・技術的職業」は教育学部・農学部でやや多くなっている。ついで多いのが「生産・技能職」の16%で、この職種は工学部Bコースにやや多く（26%）なっている。

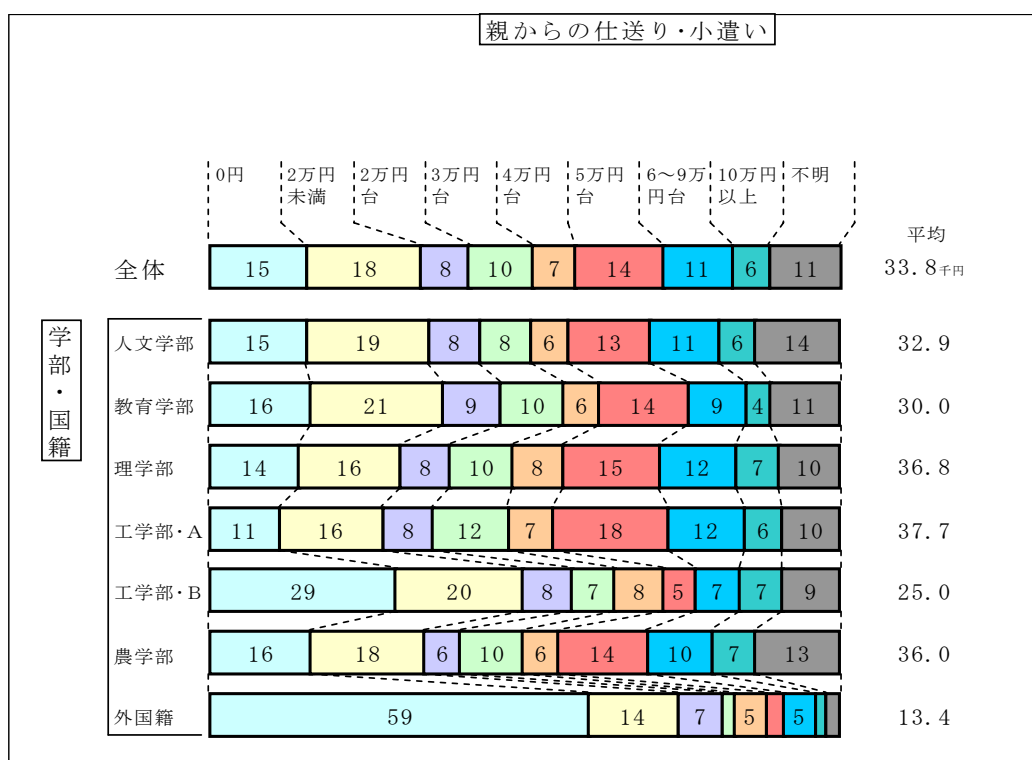
	専門的・ 技術的職 業	管理的職 業	事務的職 業	営業販売 職業	サービス 職業	保安職業	農林漁業 職業	運輸・通 信職業	生産・技 能職	その他	不明	回答者 数
全体	22.9	22.8	8.9	7.6	5.8	2.4	3.3	3.0	16.1	5.5	1.8	4018
人文	21.1	24.4	9.6	6.6	6.3	2.9	3.5	3.7	15.3	5.6	1.0	923
教育	25.3	24.4	8.8	8.2	5.1	1.7	1.6	3.2	15.1	4.7	1.8	939
理学部	21.3	21.5	7.6	10.4	5.9	3.3	3.5	3.3	14.9	6.1	2.2	489
工学A	22.5	21.9	9.6	6.7	5.9	2.0	3.6	2.7	17.6	5.3	2.0	1172
工学B	18.8	12.8	8.3	6.0	10.5	2.3	3.8	3.0	25.6	8.3	0.8	133
農学部	26.1	23.0	7.0	7.8	4.5	2.8	5.6	1.7	13.7	5.9	2.0	357

以上みたいいくつかの指標に認められる特徴は、学生の家族の所得について、学部間の違いを説明するというほどの力はないが、学部間の差異に沿ったものになっている。

● 仕送り・小遣い

問 15 あなたの生活費は月々どのくらいですか。授業料等大学納付金や家賃の分を除いた額を、収入源別に教えてください。本年前学期中(4月～7月末)のひと月当たり平均でお答えください。千円未満は四捨五入します。まず下の表に該当する金額を記入し、合計額が合うことを確認してから、マークシート所定欄(金額の桁を間違えないでください)の数字をマークしてください

	金額			
	十万	万	千	
親からの仕送り、または親からもらうお金(1ヶ月平均)				(大学納付金や家賃の分を除いた額)
奨学金(月額)				
アルバイト(1ヶ月平均)				
その他(兄弟や親戚などからの援助等)				
合計				合計は合っていますか



仕送りや小遣いは「2万円未満」(自宅通学の場合)と「5万円台」(自宅外通学の場合)を中心に多様な金額に分布している。Bコースを除く一般学部間では学部ごとの平均で見ても3万円～3万8千円の開きとなっている。2割強の差である。工学部BコースはたとえばAコースに比べて、平均額は1万8千円近く少なくなっている。これは、Aコースの自宅通学生23%に対して、Bコースのそれが41%に上っている(次頁グラフ)という要因が大きいと思われる。

留学生等外国籍学生への仕送り等も、物価水準の違い・為替レートの問題もあって、たいへん厳しい状況にある。

なお、グラフの中で〈仕送り・小遣い〉が「0円」となっているのは、[問11]仕送り・小遣いの有無に「なかった」と答えた者である。「あった」としながら[問15]で金額の記入のな

いは「不明」とした。平均は「0円」を含め、「不明」を除外して計算している。

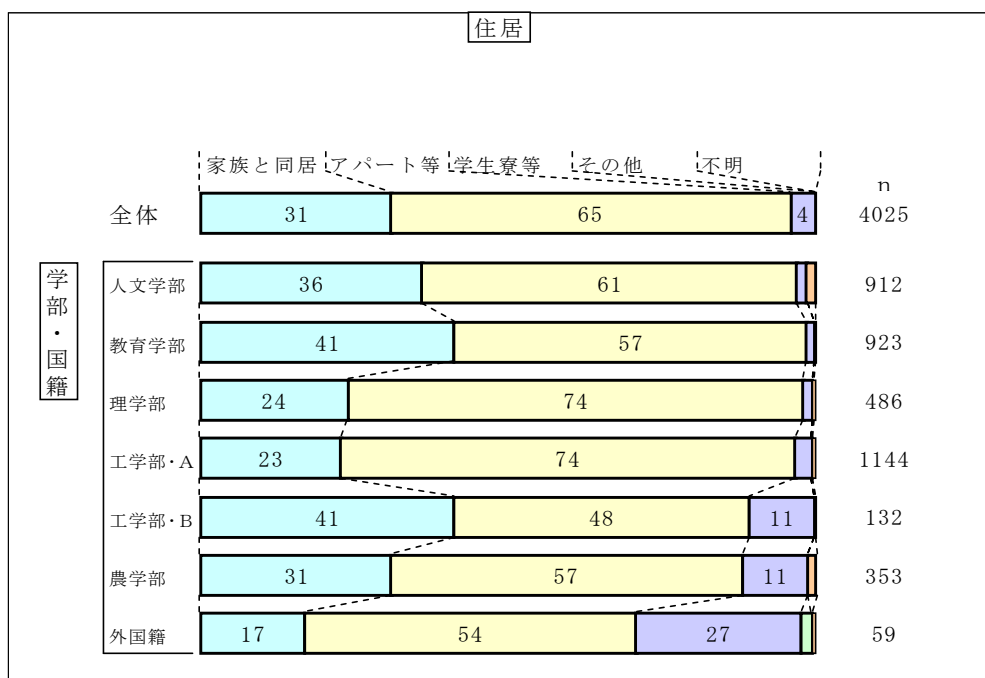
居住形態（[問5]）によって親からもらう金額が大きく異なることは、前節で確認したとおりである。親からの仕送り・小遣い額は〈自宅通学〉〈学生寮等〉〈アパート等〉の順で段階的に大きな額となる。〈アパート等〉の割合や〈学生寮等〉の割合が大きい小さいかで仕送り・小遣い額の大小がかなり左右されることになる。

学部・国籍別の居住形態構成を見ておかななくてはならない。人文学部・教育学部は、〈自宅通学〉がほぼ4割、〈アパート等〉が6割の構成である。これに比べて農学部は〈アパート等〉はおおよそ6割だが、〈自宅通学〉は3割に減り、代わりに〈学生寮等〉が1割を占める。理学部・工学部Aコースは〈自宅通学〉が4分の1、〈アパート等〉が4分の3となっている。工学部Bコースは〈アパート等〉が5割弱と少なく〈自宅通学〉4割、〈学生寮等〉1割の構成である。外国籍学生は〈学生寮等〉が3割近くをしめることが特徴で、〈アパート等〉が5割強、〈自宅通学〉2割弱となっている。

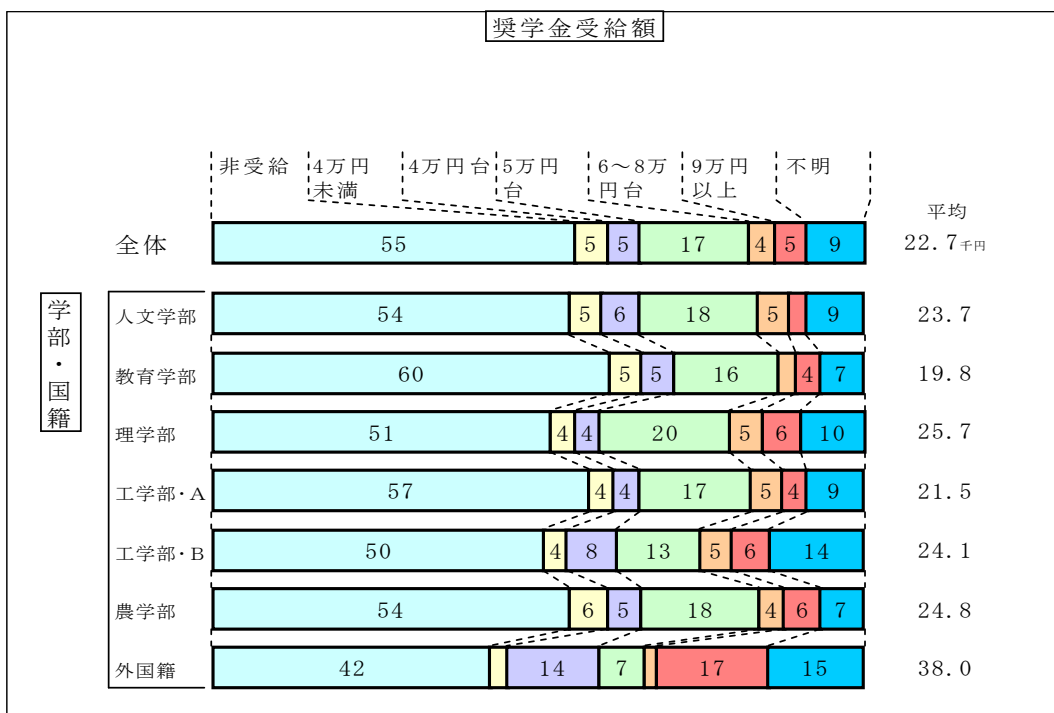
日本人学生については、学部・コースによる仕送り・小遣い額の高低は、居住形態構成の違いからほぼ説明できそうである。

問 5 あなたが住んでいるのは

1. 家族と同居 2. アパート・マンション・借家・借間 3. 学生寮・国際交流会館 4. その他

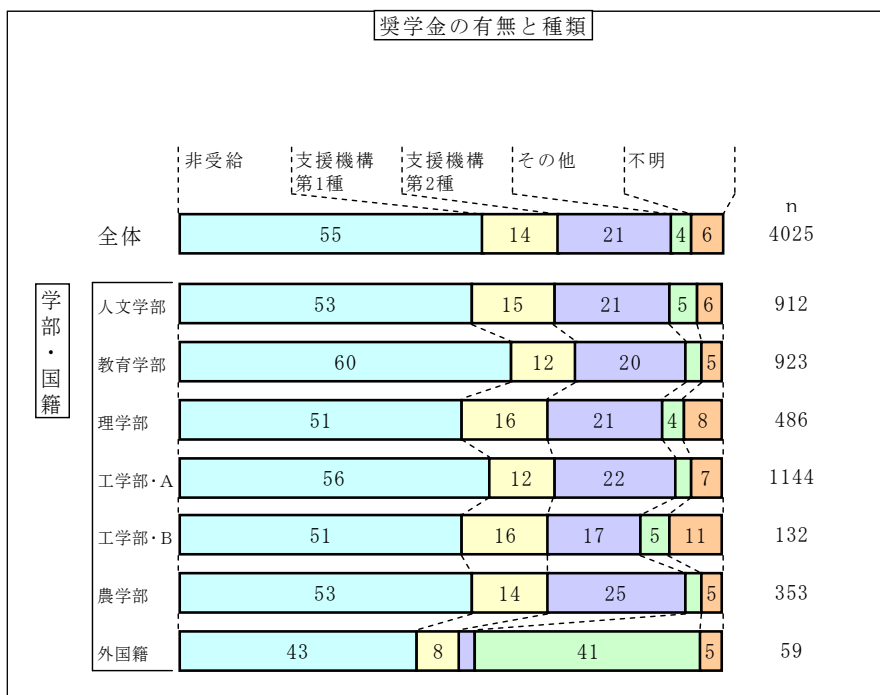


● 奨学金



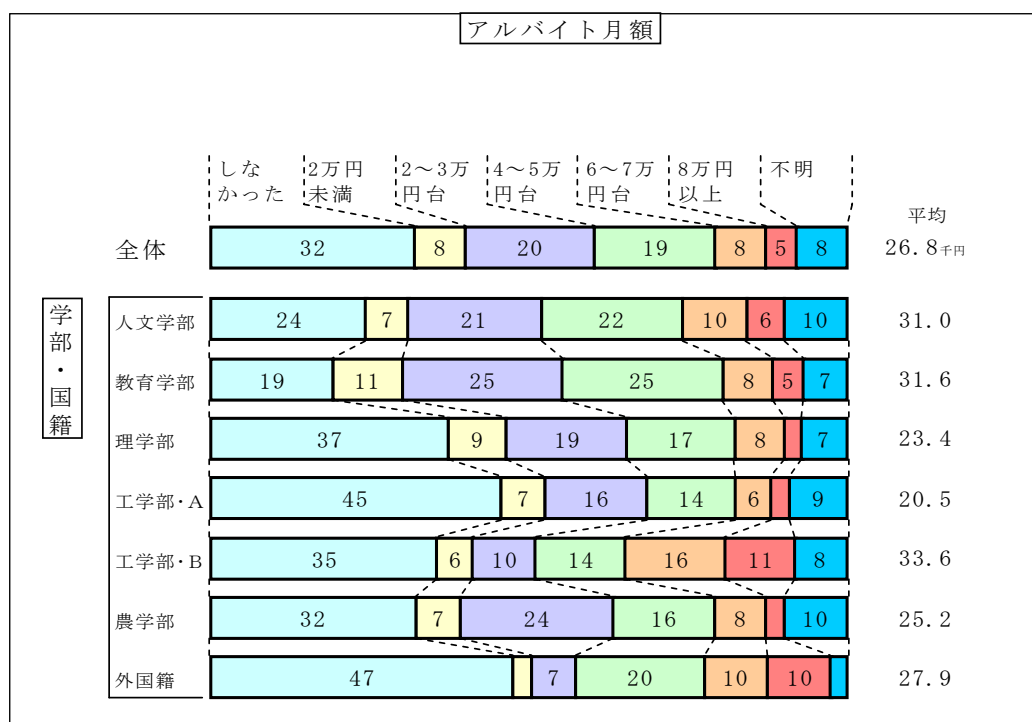
文系に比べて理系学部で受給者がやや多く（「不明」は〈受給者〉の金額不記入者である）、受給額の中心は「5万円台」である。平均は〈非受給者〉（「0円」として処理）を含めた数値であり、平均がやや高いのは理学部、農学部、工学部Bコースとなっている。

外国籍学生の奨学金は平均で3万8千円、受給者のみの平均（不明を除く）ではおよそ7万5千円であり、特に「9万円」以上の受給者が多いのが目立つ。仕送りが少ないのを補っているといえるが、それでもかなり厳しい状態にあることは否定できない。



奨学金の種類については前頁のグラフの通りである。日本人学生では、学部・コース間の差はあまり大きくない。当然ながら、外国籍学生は特に留学生において、母国の留学生向け奨学金を受給している学生が多いため、「その他」多く、かつ、受給額のグラフに見るように、その金額も大きなものとなっている。

● アルバイト月収額



前期にアルバイトをした学生は、いずれの学部でも過半数に上るが、文系学部でのその比率が高く 8 割前後をしめ、理系学部では工学部 A コースで 55%、それ以外で 60% 台であった。外国籍学生の 5 割強もアルバイトをしている。

アルバイト月収額の中心を占めるのは 2 万円～5 万円台という金額帯であるが、工学部 B コースと外国籍学生では「8 万円以上」が多いのが目立っている。特に B コース学生では、6 万円以上で 27% と、アルバイトをした学生の 4 割強をしめて、コースのアルバイト平均額を押し上げている。

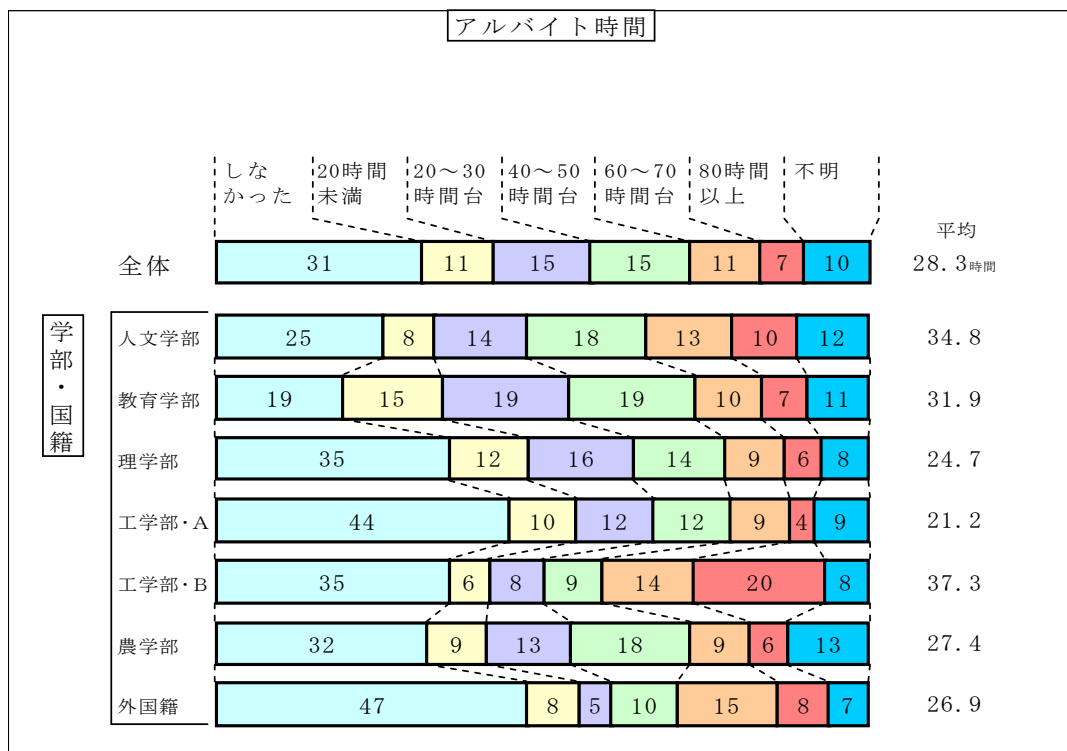
アルバイトを〈しなかった〉学生を含めた平均額はおよそ 2 万円～3 万円で、工学部 B コースが 3 万 4 千円、文系学部が 3 万 1～2 千円となっている。最も少なかったのは、アルバイトをしなかった者が多い工学部 A コースの 2 万円強であった。

外国籍学生はアルバイトをした学生が 5 割強にとどまるが、アルバイト学生の月収額が日本人学生より大きく、4 万円以上の収入を得ているものが大半であるため、全体の平均額は 2 万 8 千円に上る。

● アルバイト時間

問 20 <問20～問22は今年前期にアルバイトをしたことがある方にうかがいます>今年の前学期中（4月～7月末）の1ヵ月あたりのアルバイト時間はどれくらいでしたか。4月～7月末の4か月を通して平均した1ヵ月あたりのアルバイト時間を教えてください。30分未満は切り捨て、30分以上を切り上げて、1時間単位でお答えください。100時間を超える場合は99時間としてください。月平均30分未満の人は0時間としてください

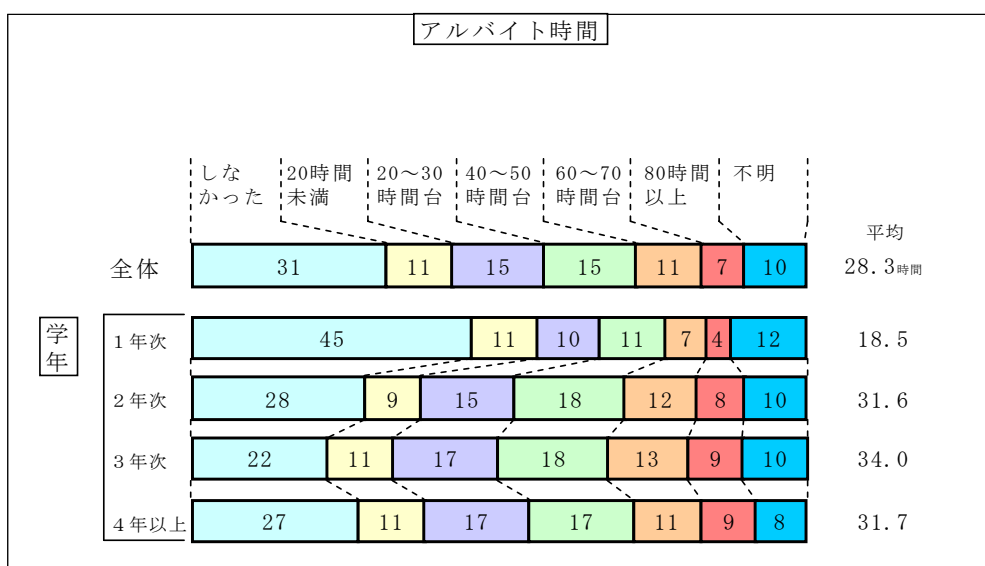
1ヵ月に 時間くらい



学部・国籍別にみた平均アルバイト時間は、当然ながら、ほぼアルバイト収入月額の大
小に対応している。アルバイト収入の割に時間が短いのは（つまり平均時給が高いのは）、
外国籍学生であり、ついで教育学部、工学部 A コースとなっている。逆に時間が長いのは
人文学部、工学部 B コースである。ちなみに、アルバイトの平均月収を月平均アルバイト
時間で叙したいわば平均時給は、高い順に、外国籍学生 1037 円、教育 988 円、工学部 A967
円、理学部 948 円、農学部 918 円、工学部 B901 円、人文 893 円となっている。

ただ、純粋にアルバイト時間の長さとしてみたとき、夜間主コースの B コースで月 60 時
間以上の者が 34%にのぼるのはコースの特性であるとして、人文学部や外国籍学生で 4 人
に 1人に近い 23%が月 60時間以上のアルバイトをしているのは気にかかることである。

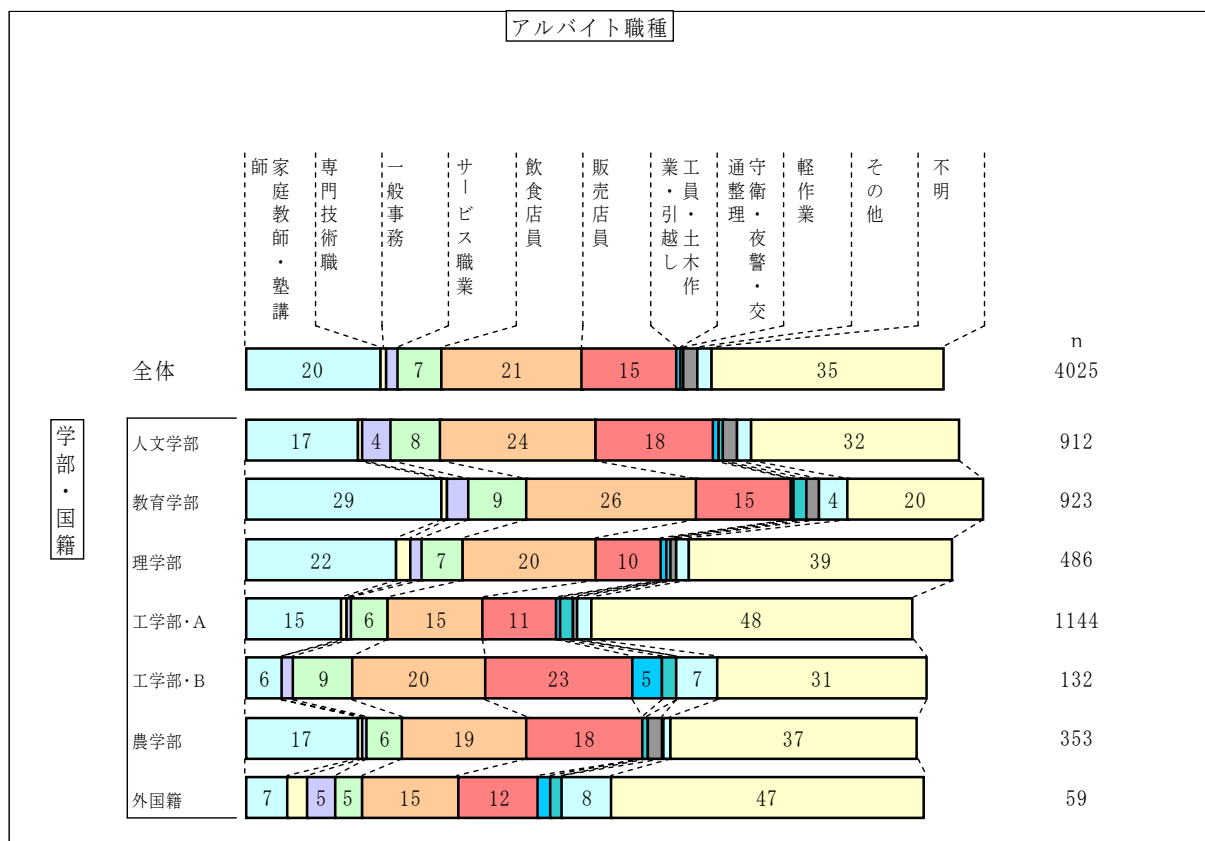
なお、学年別にみたアルバイト時間は次頁のグラフの如くであり、1 年生前期ではアルバ
イトをする学生も半分を少し超える程度で、平均時間は 20 時間を切っている。2 年になる
とアルバイト比率は急速に上昇し、3 年生ではほぼ 5 人のうち 4 人がアルバイトをして、平
均アルバイト時間は 34 時間に達する。4 年生では、後に見るように履修科目数が減少し時
間的余裕ができるようにも見えるが、アルバイトは若干減少する。就職活動、卒業研究の
ためであろう。



● アルバイト職種

問 23 <現在アルバイトをしている人にうかがいます> 現在どんなアルバイトをしていますか (複数回答可)

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. 家庭教師・塾講師 | 2. 専門技術職 (コンピュータ・翻訳など) |
| 3. 一般事務 | 4. サービス職業 (コンパニオン・給仕など) |
| 5. 飲食店員 (ファーストフードなど) | 6. 販売店員 (コンビニ・スーパー・デパートなど) |
| 7. 工員・土木作業・引越など | 8. 守衛・夜警・交通整理など |
| 9. 軽作業 (宣伝物配布・宛名書き・調査など) | 10. その他 (具体的にマークシート裏面に) |



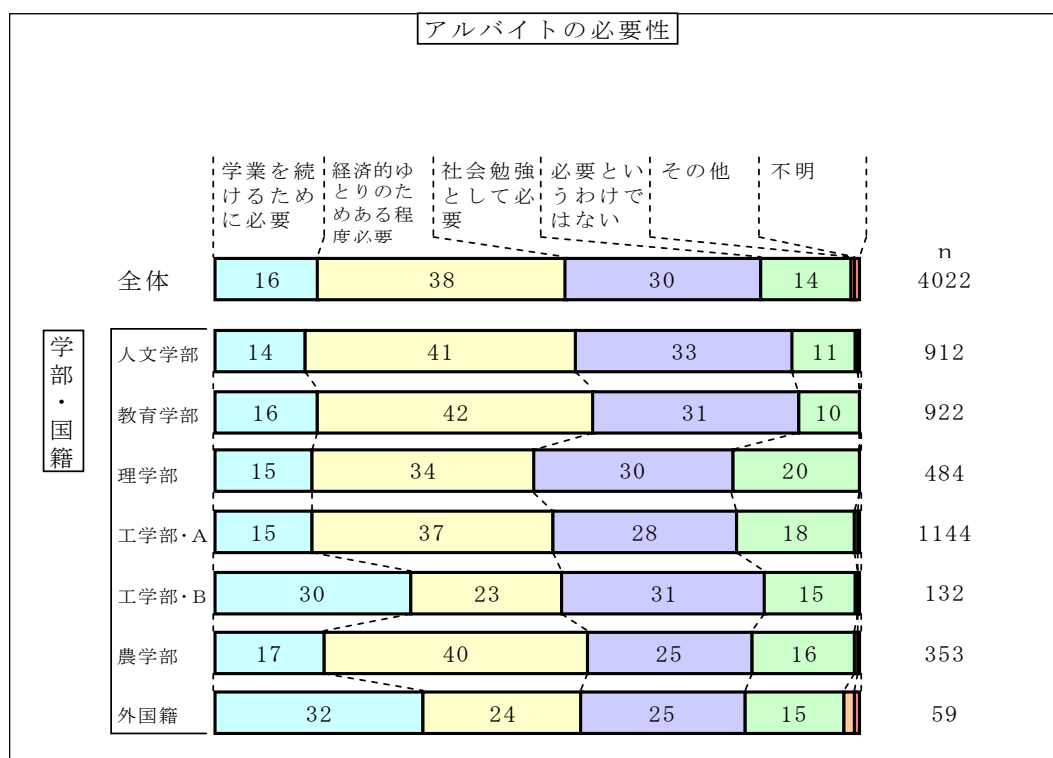
全体としては「飲食店員」が最も多く、次が「家庭教師・塾講師」でそれぞれほぼ2割、ついで「販売店員」が15%となっている。

教育学部生のアルバイト平均時給が比較的高いのは、「家庭教師・塾講師」といった仕事が多いからである。外国籍学生のそれが高いのは翻訳・通訳などの「専門技術職」のアルバイトが、割合は少ないながら、他と比べて著しく高い時給となるためであろうか。人文学部、工学部 B コースのように「飲食店員」「販売店員」の割合が高い場合には、平均時給は比較的低くなる。

● アルバイトの必要性

問 24 <全員にうかがいます>あなたは、自分の学生生活でアルバイトは必要と思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 学業を続けるために経済上、どうしても必要
2. 経済的ゆとりのために、ある程度必要
3. 社会勉強として必要と思う
4. どうしても必要というわけではない
5. その他（具体的にマークシート裏面に）



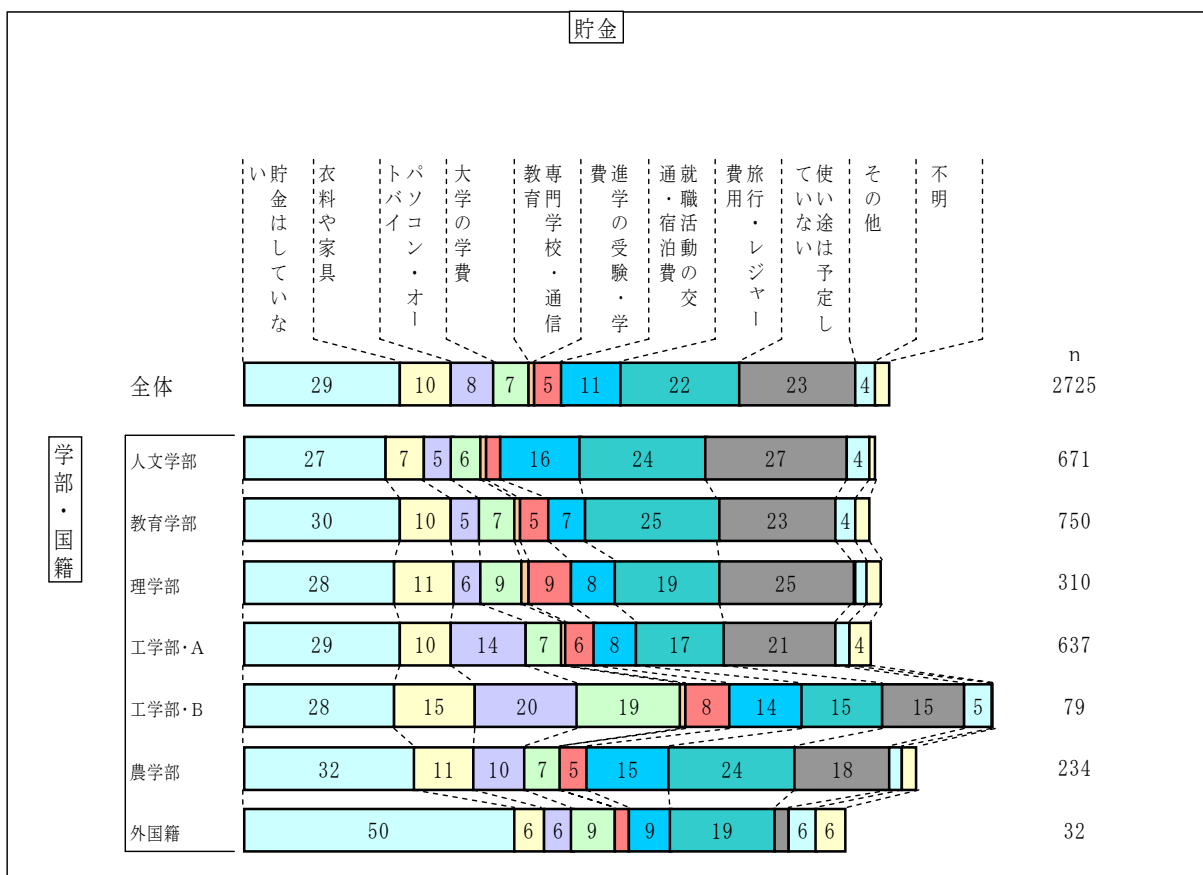
アルバイトの必要性について、全体では「経済的ゆとりのため」が4割弱、次が「社会勉強として」で3割、そして「学業を続けるために必要」が16%であった。

「学業を続けるために必要」の割合が3割と高いのは工学部 B コース学生と外国籍学生である。この割合が高い場合、「経済的ゆとりのため」が減少してその分を吸収し、他の項目にあまり変化はない。一般学部生では文系で「経済的ゆとりのため」が比較的多く、理学部・工学部 A コースで「必要というわけではない」が比較的多い。農学部は文系・理系(理・工 A)の中間のような特徴を示している。

● アルバイト収入の貯金目的

問 22 アルバイトで得たお金を貯金していますか。何に使う予定の貯金ですか（該当するものいくつかでも選んでください）

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 貯金はしていない | 2. スーツなど衣料や家具の購入にあてるために貯金 |
| 3. パソコン・オートバイなどの購入にあてるために貯金 | 4. 大学の学費にあてるために貯金 |
| 5. 専門学校・通信教育などの費用にあてるために貯金 | 6. 進学の受験・学費の準備のための貯金 |
| 7. 就職活動の交通・宿泊費などにあてるために貯金 | 8. 旅行・レジャーの費用にあてるために貯金 |
| 9. 特に使い途は予定していない | 10. その他（具体的にマークシート裏面に） |



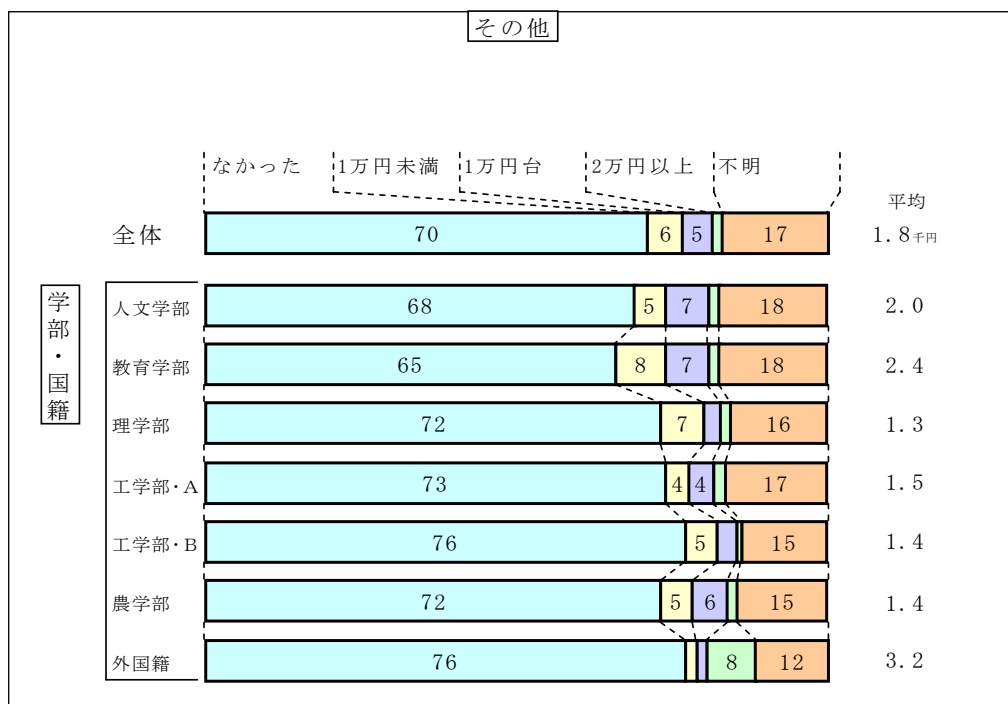
最も特徴的なのが工学部 B コースであって、「パソコン・オートバイなどの購入」(20%)、「大学の学費」(19%)が他の学部・コースに比べて著しく多いことが目立っている。また、外国籍学生は「貯金はしていない」が半数を占めることで目立っている。貯金の余裕がない者が少なくないのであろう。

工学部 A コースは「パソコン・オートバイなどの購入」(14%)がやや多く、その代わり「旅行・レジャー」が 17%と少ないのが特徴である。人文、農学部では「就職活動交通・宿泊費」(16~15%)が、他学部・コースと比べて、比較的多い。

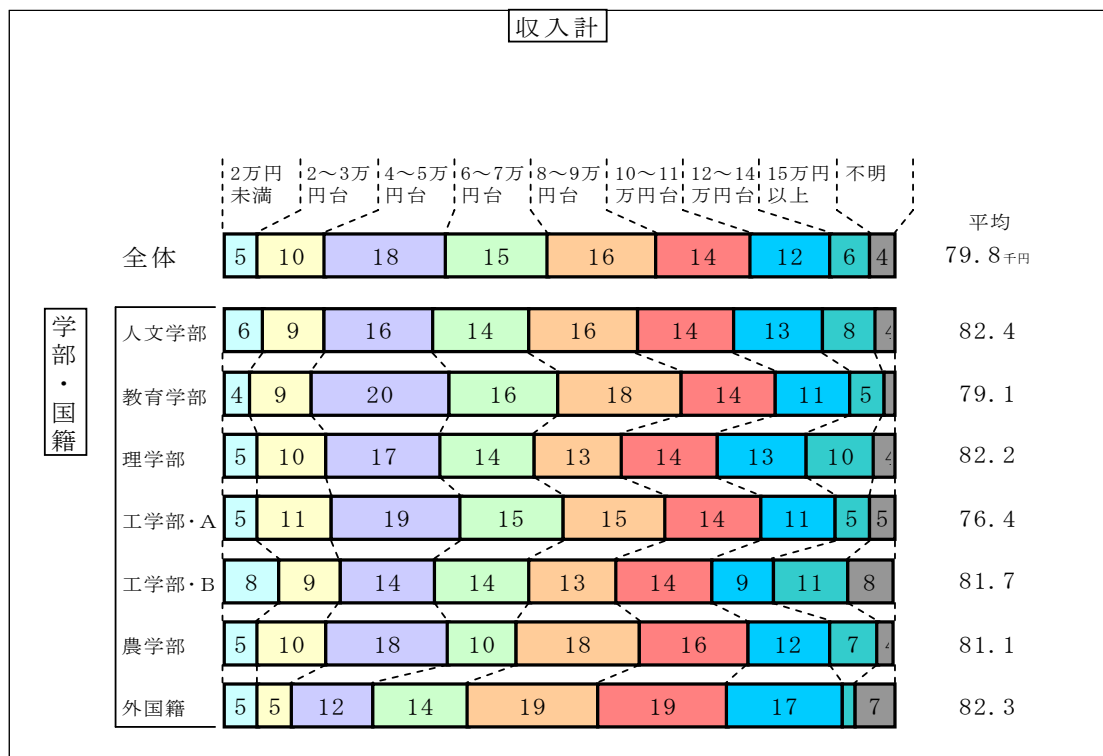
全体としてみると、最も多いのは「貯金していない」のおよそ 3 割、これに「使い途は予定なし」が 23%、「旅行・レジャー」が 22%で続いている。以下、割合は大きく減少して、「就職活動の交通・宿泊費」「衣料や家具」が 1 割ほどとなっている。

● その他の収入（兄弟・親戚などからの援助等）

その他の収入（兄弟・親戚などからの援助等）があった者が3割前後いるが、金額は未記入が多い。おそらくそうした援助がスポット的な援助・小遣いの類であって、合算して月平均に換算するのが面倒なためであったろう。いずれにしろ、その他収入があったものが少ないため、平均すると月あたり1千～2千円程度にしかない。ただし、外国籍学生の場合には月々「2万円以上」もらっているという者が8%いて、平均を3.2千円に押し上げている。



● 月当たり生活費合計



ここまで、学生の収入項目〈親からの仕送り・小遣い〉〈奨学金〉〈アルバイト〉〈その他〉について個別に見てきた。そこには学部・国籍間の少なからざる、そして項目ごとに異なる差異を見出すこともできた。しかしそれらを合算した収入計²について見ると、いかなる加減か、差異が均(なら)されて、学部・国籍ごとの平均でいえば7万9千円±3千円というわずか6千円の差の中に納まっている。

収入項目別平均額

(単位:千円)

	親から	奨学金	アルバイト	その他	収入計	差*
[学部・国籍]計	33.8	22.7	26.8	1.8	79.8	5.3
人文学部	32.9	23.7	31.0	2.0	82.4	7.3
教育学部	30.0	19.8	31.6	2.4	79.1	4.7
理学部	36.8	25.7	23.4	1.3	82.2	5.0
工学部・A	37.7	21.5	20.5	1.5	76.4	4.8
工学部・B	25.0	24.1	33.6	1.4	81.7	2.5
農学部	36.0	24.8	25.2	1.4	81.1	6.3
外国籍	13.4	38.0	27.9	3.2	82.3	0.2

* 差は項目別の平均額合計から収入計を減じた差額である

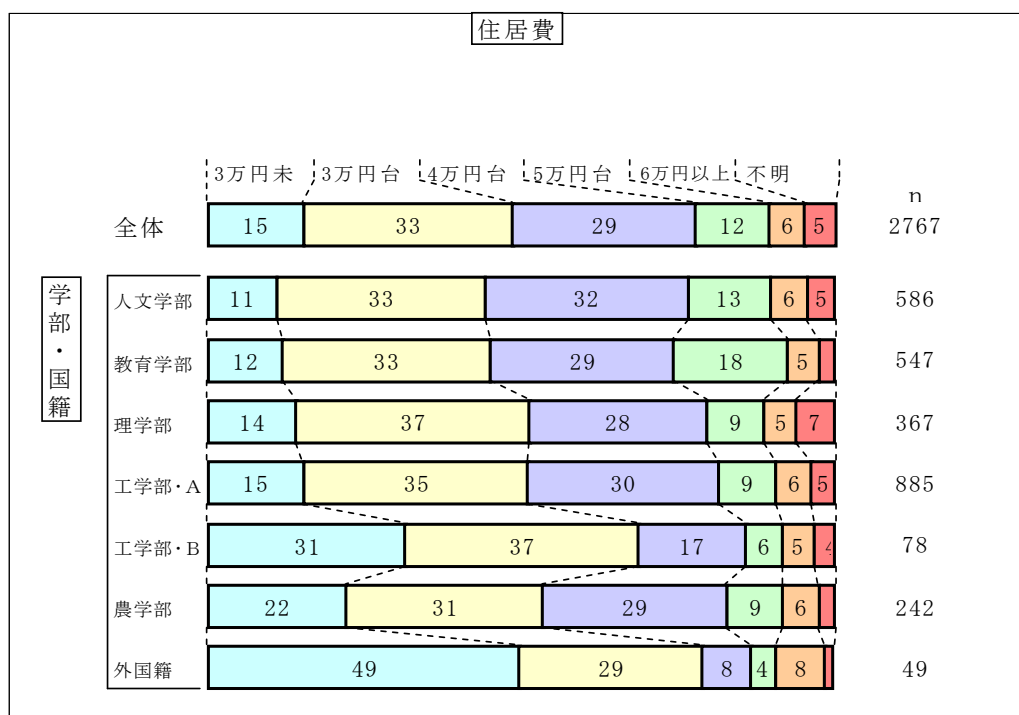
² ここで用いている「収入計」は[問15]において回答者に記入してもらった「合計」である。コーディングの際、個別収入項目に記入された金額の合計と「合計」に記入された金額を突き合わせてチェックを行った。明らかに記入桁間違いと思われる修正などを行ったが、特定項目の修正の根拠が見出せない回答については合計額が合わなくても、記入された回答のままとした。また、収入項目の一部に未記入がある回答も有効とした。上記のような回答はかなりの数に上る。収入計の平均値が各収入項目の平均値の合計と合わないのはそのためである。

●住居費

以下、学生の経済状態と関連する若干の事柄を見ておく。まず、自宅外通学者の住居費である。

問 6 <「親と同居」以外の方にお尋ねします> 月々の家賃(光熱費を除き、共益費・管理費等を含む)はどのくらいですか。

月に 万 千円 (光熱費を除き、共益費・管理費等を含む)



自宅外通学生の住居費、すなわちアパート家賃や学生寮費は1万円未満から10数万円まで幅広く分布しているが、実際には民間のアパート家賃と大学などが設置する学生寮費とではまったく水準が異なり、別個に見てみなくてはならない。

アパート等家賃の平均はアパート等居住者全体で4万3千円、学生寮等の寮費は7千円であった。茨城大生が利用するアパートはおおむね家賃3万円台から4万円台に集中している。

住居費平均(自宅外通学者)

[単位:千円]

	[自宅外住居]計	アパート等	学生寮等
[学部・国籍]計	40.2	42.5	7.3
人文学部	42.1	43.5	8.3
教育学部	42.6	43.9	9.7
理学部	40.2	41.4	9.6
工学部・A	39.4	41.3	5.4
工学部・B	31.9	38.0	7.5
農学部	37.6	44.0	5.9
外国籍	33.4	45.7	9.3

● パソコンの保有状況

問 25 あなたはパソコンを持っていますか

1. 自分のパソコンを持っている
2. 家にパソコンがあり、たいてい自由に使える
3. いつでも使えるわけではないが、家のパソコンがある
4. 近く購入する予定でいる
5. もっていない

パソコン保有状況

		自分のパソコンを持っている	家のパソコンが自由に使える	家のパソコンがある	近く購入する予定でいる	もっていない	不明	n
全体		83.3	10.2	2.3	0.5	2.5	1.3	4025
学部・国籍	人文学部	79.6	13.5	2.5	0.7	2.6	1.1	912
	教育学部	78.0	14.8	2.7	0.3	2.8	1.3	923
	理学部	89.9	4.9	2.5	0.6	1.0	1.0	486
	工学部・A	87.9	6.7	1.1	0.6	2.0	1.6	1144
	工学部・B	84.8	7.6	3.0	0.0	4.5	0.0	132
	農学部	82.7	9.3	3.7	0.3	3.7	0.3	353
	外国籍	79.7	6.8	1.7	0.0	5.1	6.8	59
収入の階層	300万円未満	81.1	9.5	3.7	0.6	4.7	0.4	465
	500万円未満	81.5	12.2	2.5	0.6	2.3	1.0	525
	750万円未満	83.4	10.9	1.6	0.7	2.6	0.9	578
	750万円以上	88.3	6.7	1.9	0.6	1.6	1.0	698
	わからない	82.9	11.1	2.2	0.3	2.2	1.2	1618

今日、パーソナルコンピュータは学生のほとんどが持つ文房具兼情報機器となっている。もはやPCを持つことが勉学に特に有利になるわけではないが、手元にそれが無いことは学習・研究に伴う情報収集の面などでかなり不利になるようになっていっていると言えよう。

保有状況を学部・国籍別に見ると、「自分のPCがある」あるいは「家のPCが自由に」を合わせるとおおむね9割以上の学生が、PCを使える状態にあるといえる。とくに理系学生では8割半ばから9割の学生が「自分のPC」を持っている。一方で、割合は小さいながらも、「もっていない」という学生も存する。特に外国籍学生では、「自分のPC」と「家のPCが自由に」を合わせても8割台半ばであり、また「もっていない」も5%になっている。

しかし、今回の調査の関心で言えば、問題は経済状態がPCの保有状況に影響を与えていないかどうか、ということである。そこで、日本人学生のみについてであるが、親の所得階層別にPC保有状況をみると、大きな差ではないけれども、「自分のPC」を持つ比率は、〈750万円以上〉の88%から〈300万円未満〉の81%へと減少していることが確認できる。また〈300万円未満〉では「もっていない」割合が4.7%と、それ以上の収入階層（合わせて2.1%）の2倍以上になっている。

Ⅱ アルバイトと学業

1 アルバイトと学業成績

I部-1「収入項目間の関係」においてわれわれは、奨学金の支給が学生のアルバイトを軽減する効果を持たないらしいことを明らかにした。むしろ「お墨付き」効果によってアルバイトを促進しているとさえ見える。だとしても、それが問題になるとすれば、そこに「アルバイトは勉学の妨げになる」という前提があればこそである。ここではアルバイトが学業成績にどのように影響しているか確かめてみたい。

それを知るためには、まず、アンケート調査という制約のなかで成績を的確に把握しなければならない。成績は次の二つの質問で把握することとした。

[問 27] 今年前期に単位が取れた科目は何科目くらいですか。

履修申告___科目に対して、合格した(単位が取れた)科目は___科目

[問 28] 今年前期に取得した単位の評価はだいたいのところDからA+のどれが多かったですか。(多い山が二つあって、どちらが多いともいえない場合、二つに○をつけてください。)

【「D」～「A+」の5選択肢を用意】

さらに成績に影響を与えそうな他の要因をコントロールしなければならないため、そうした要因について把握できなければならない。そのような要因として、今回の調査では、読書時間、授業出席状況を聞いている。

[問 26] 授業時間以外に勉強のための読書をどのくらいしますか。

週___時間くらい (試験期間中以外は勉強の本を読まない場合は0時間と記入)

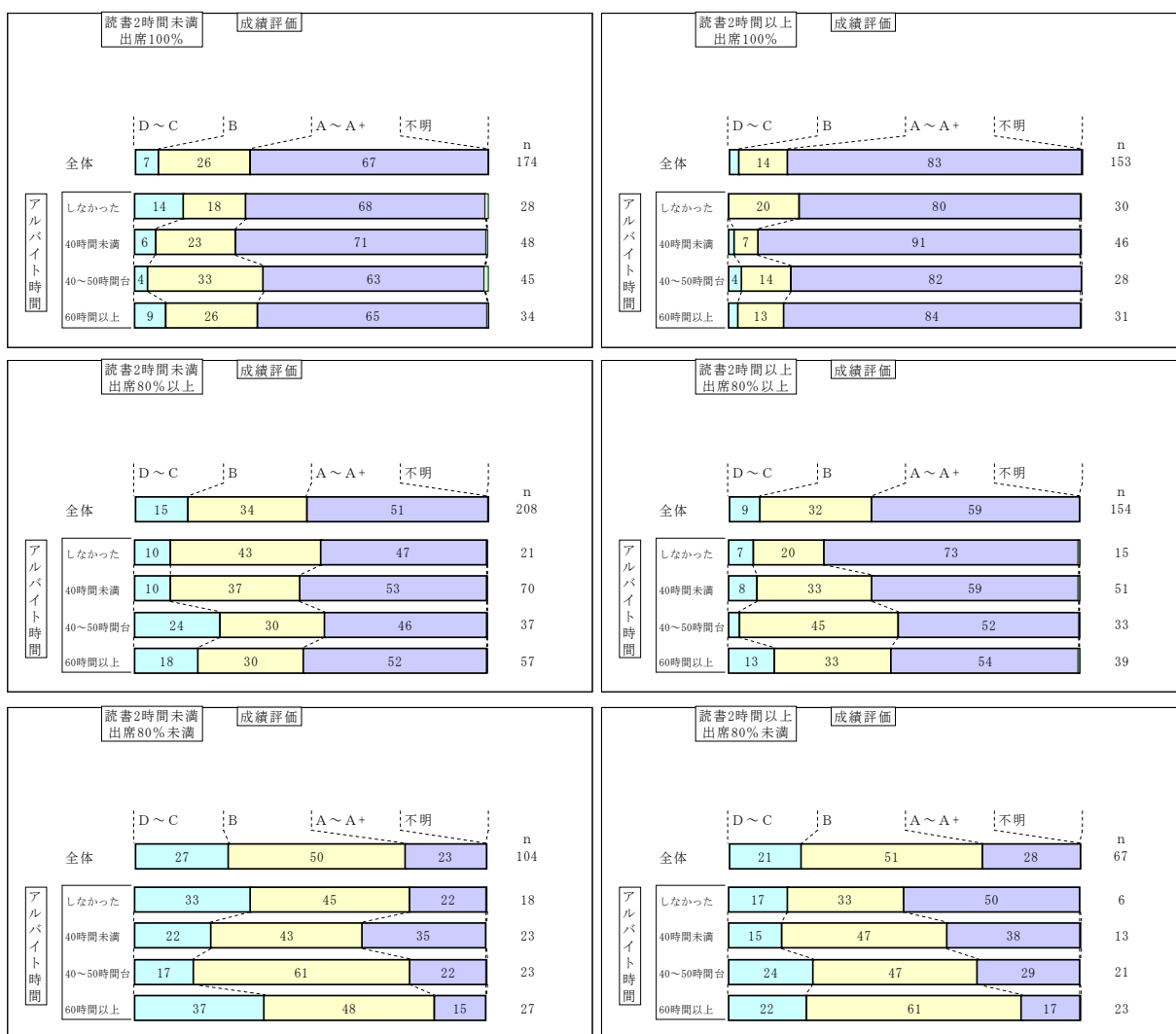
[問 29] 今年前期、履修申告をした授業で授業回数の80%以上出席した授業(一般には欠席3回以下の科目。教育実習等での欠席は分子・分母から除いてください)は履修科目数の何%くらいでしたか。【「100%」～「60%未満」の4選択肢を用意】

これらのデータを用いて分析を進めていく過程で、さらにいくつかのコントロールすべき要因が認められた。

- ① 工学部 B コースを除外する … 夜間主コースであるため、アルバイトの事情が昼間コースの学生とは異なる。
- ② 外国籍学生を除外する … 経済的事情が異なり、したがってアルバイトの事情が異なる。
- ③ 1年生および4年生以上を除外して、2～3年生のみを分析の対象とする … 1年生は教養科目の履修に限定され、専門科目の履修とは成績構成が異なる。また、4年生以上は履修する科目数も少なく、就職活動などで欠席も目立つ。
- ④ 文系と理系とを区別する … 理系学部(理学部、工学部、農学部)と文系学部(人文学部、教育学部)とでは、専門科目の評価基準が異なり、A、A+の割合が大幅に異なる。

図Ⅱ-1-a、図Ⅱ-1-bは、工学部Bコースを除く日本人学生2～3年生について、文系・理系別に、授業出席状況、勉強の読書時間、アルバイト時間を文理同じ条件でコントロールしながら成績評価を比較したものである³。

図Ⅱ-1-a 文系



まず、文系学部について見ると、集計結果からわかるのは次のような点である。

- ① 出席状況は、読書時間やアルバイト時間をコントロールしても、成績を大きく左右している。出席状況がよいほど「D~C」「B」の下位・中位成績者が減少し、「A~A+」の上位成績者が大幅に増加するのである。
- ② 読書時間は（たった2区分であるが）、出席状況やアルバイト時間をコントロールしても、成績にかなりの影響を与えていることが認められる。そのパターンにアルバイト時間

³ グラフの左列は「読書時間2時間未満」、右列が「同2時間以上」、そして上段が「出席授業100%」、中段「同80%以上」、下段「同80%未満」である。格段の中をアルバイトについて「しななかった」～「60時間以上」の4段階に区分している。成績評価は評価点「D~C」「B」「A~A+」の3区分である。

によるばらつきはあるが、出席状況「100%」に満たない中段・下段では、読書時間が長い方（2時間以上）が、下位成績者が減少し上位成績者が増加しているように見受けられる。

③ これらに対して、アルバイト時間は学業成績にあまり傾向的・規則的な影響を与えていないように見える。とくに、出席状況が良い（100%）場合、読書時間の長短いずれにおいても、成績水準はアルバイト時間ではあまり変化しない。しかし、出席状況や読書時間をコントロールしたとき、一部のカテゴリーにアルバイト時間の影響とおぼしきものが認められる。

(a)出席状況が悪い（80%未満）層でアルバイト時間と上位成績者の増減の傾向的關係が見られる。これは、アルバイト時間が長い場合に出席状況がより悪化し（[問 29]「60%未満」の増加）、これによって上位成績者が減少するためであろう。

(b)中位・下位の出席状況の場合、アルバイトをしなかった者で、読書時間の長短による成績の差が大きい。またアルバイトをしていても一部の時間帯で読書時間が短い場合に比べて差が大きい部分がある。これらは読書時間「2時間以上」という区分の中でもたとえば10時間以上の読書をしているといった者の割合が高い部分である。次のように言えるであろう。

「アルバイト時間が短いことは時間の余裕を作り出すが、授業への出席が充分でない学生では、その余裕を勉学に用いた場合にのみ成績が上昇する。出席状況がよければ、読書は成績を上げるが、アルバイトの長短はあまり成績に関係しない」。

つぎに理系学部であるが、図Ⅱ-1-bの帯グラフでは傾向が読み取りにくい。そこで情報をさらに集約した平均点表を補助資料とする（表Ⅱ-1）。

両者をにらみ合わせながら、次のような点は文系学部の場合と同じように確認できる。

① 出席状況は、読書時間やアルバイト時間をコントロールしても、成績を大きく左右している。

② 読書時間が長ければ、出席状況やアルバイト時間をコントロールすると、成績は多くの場合で高くなる。

しかし、この二つの観点の場合、文系学部のように、成績構成の推移パターンがはっきりしたものにはなっていない。アルバイト時間と成績評価との関係はもっとばらばらで、解釈可能な傾向性は容易に見出

表Ⅱ-1 成績評点の平均

		文系		理系	
		読書 2時間未満	2時間以上	読書 2時間未満	2時間以上
出席 状況 × アル バ イ ト 時 間	[100%]計	3.7	4.0	3.2	3.3
	しなかった	3.6	4.0	3.1	3.4
	40時間未満	3.7	4.1	3.1	3.1
	40～50時間台	3.7	4.0	3.6	3.5
	60時間以上	3.8	4.0	3.2	3.5
	[80%以上]計	3.4	3.6	2.8	3.0
	しなかった	3.4	3.7	2.7	2.7
	40時間未満	3.5	3.6	2.9	3.1
	40～50時間台	3.1	3.6	2.8	3.3
	60時間以上	3.4	3.6	2.9	3.0
	[80%未満]計	3.0	3.1	2.3	2.4
	しなかった	2.9	3.4	2.1	2.1
40時間未満	3.2	3.3	2.3	2.5	
40～50時間台	3.1	3.1	2.4	2.8	
60時間以上	2.8	2.9	2.3	2.4	

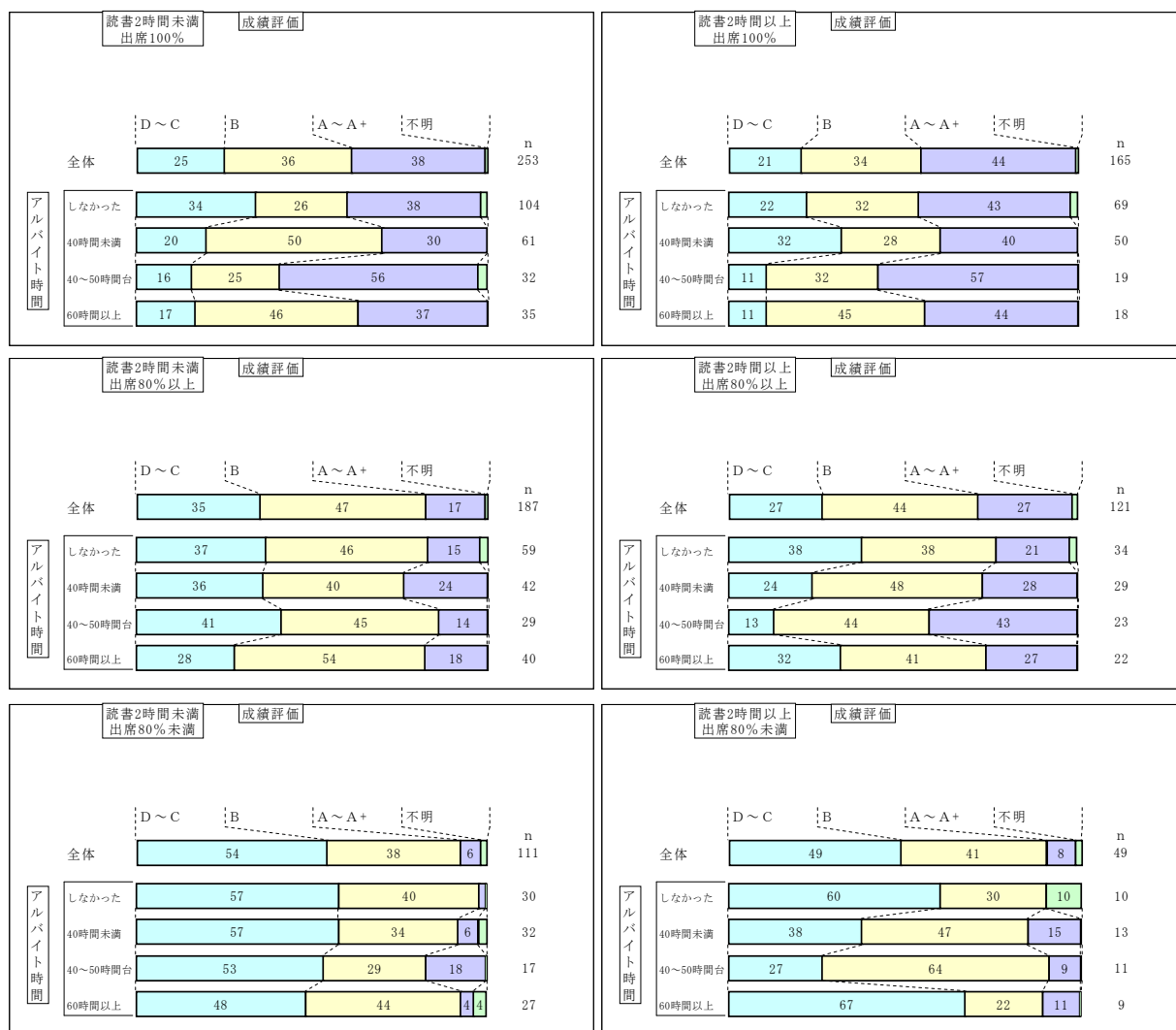
* [問28]への回答「D」～「A+」に1点～5点を与え、二つ山の回答には両者の平均の点数を与え、これによって平均を算出した

** 網掛けは「読書2時間未満」≧「2時間以上」のセルである

しがたい。いくつかの集計区分では、アルバイトが短いグループよりも比較的長い「40～50時間台」で成績点が最も高くなっている。

理系学部で、文系学部に比べて、明確な傾向が現れにくい理由ははっきりしない。「読書時間」という聞き方が文系向きであって、理系学生に対しては、実験時間や計算練習時間なども配慮した設問が必要であったのかもしれない。ただ、読書やアルバイトの効き方が鮮明でない分、授業出席状況の効き方が文系よりも幾分強いように思われる。

図Ⅱ-1-b 理系

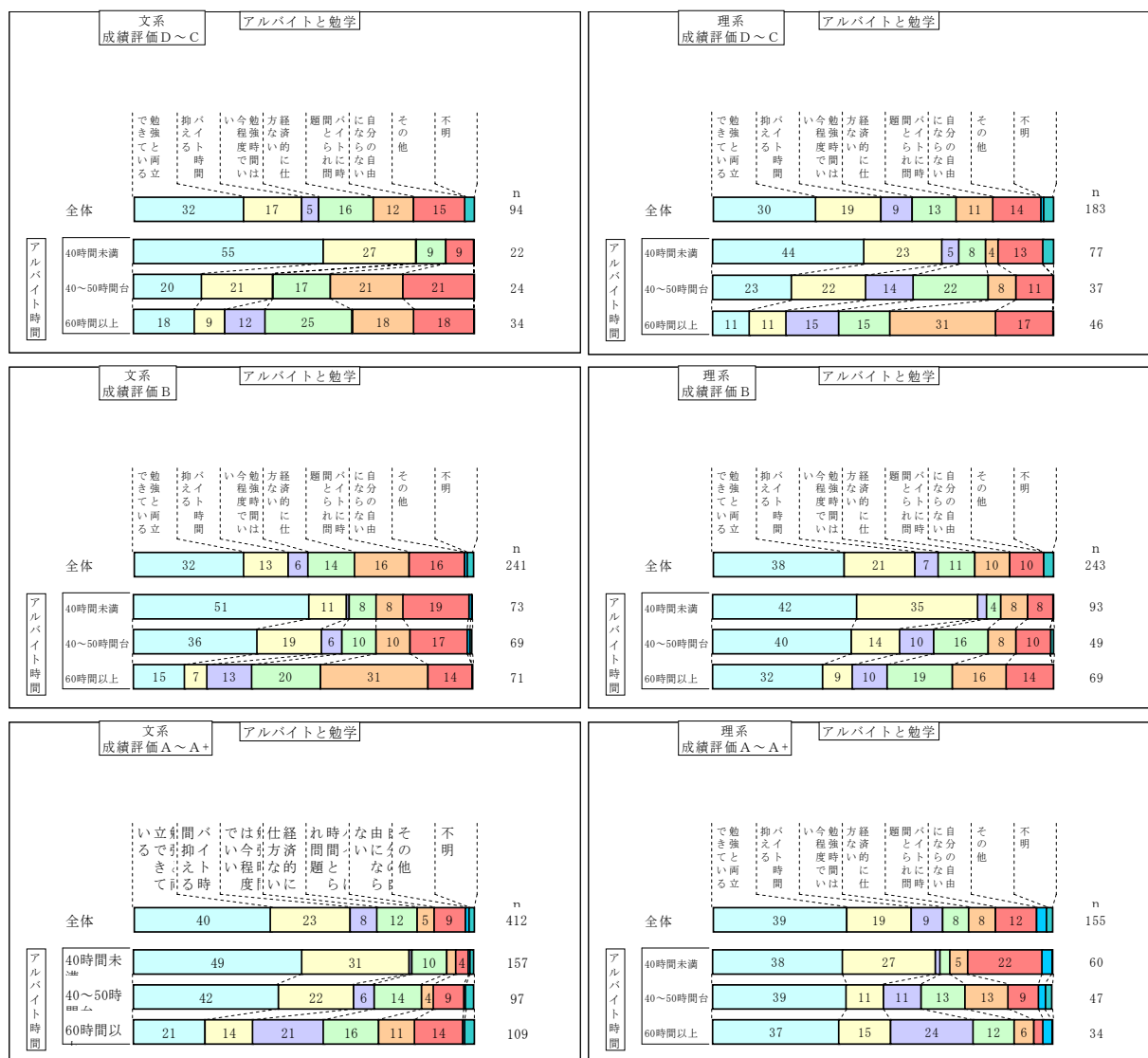


本節の最後に、学生自身がアルバイトと勉強との両立をどのように考えているかを見ておこう（図Ⅱ-2）。グラフは日本人一般学部生 2～3 年生のアルバイトをした学生のみを対象とし、左列が文系学部、右列が理系学部、上から下へ成績評価低(D～C)～高(A～A+)の順に並んでいる。格段のなかはアルバイト時間（3 区分）で分けてある。

図Ⅱ-2

問 21 アルバイトに時間がとられて勉強の時間が少ないと感じたことがありますか。あなたの気持ちに一番近いものをひとつだけ選んでください。

1. 必要なだけアルバイトをしながら、必要なだけの勉強と両立できていると思う
2. もっとアルバイトをしたいのだが、勉強と両立できる程度にアルバイト時間を抑えている
3. アルバイト時間が多い気はするが、勉強の時間は今程度でいいと思う
4. 勉強の時間をとられていると感じるが、学生生活を続けていくためには経済的に仕方がない
5. アルバイトに時間をとられ十分な勉強の時間がなくて、問題を感じている
6. アルバイト時間が必ずしも自分の自由にはならず、勉強時間を圧迫することもある
7. その他（具体的にマークシート裏面に）



まず全体的に見ると、比較的大きな割合を占める「必要なだけアルバイトをしながら、必要なだけの勉強と両立できている」や「もっとアルバイトをしたいのだが、勉強と両立できる程度にアルバイト時間を抑えている」は、文系・理系ともに、成績評価よりもアルバイト時間との相関が大きいように思われる。

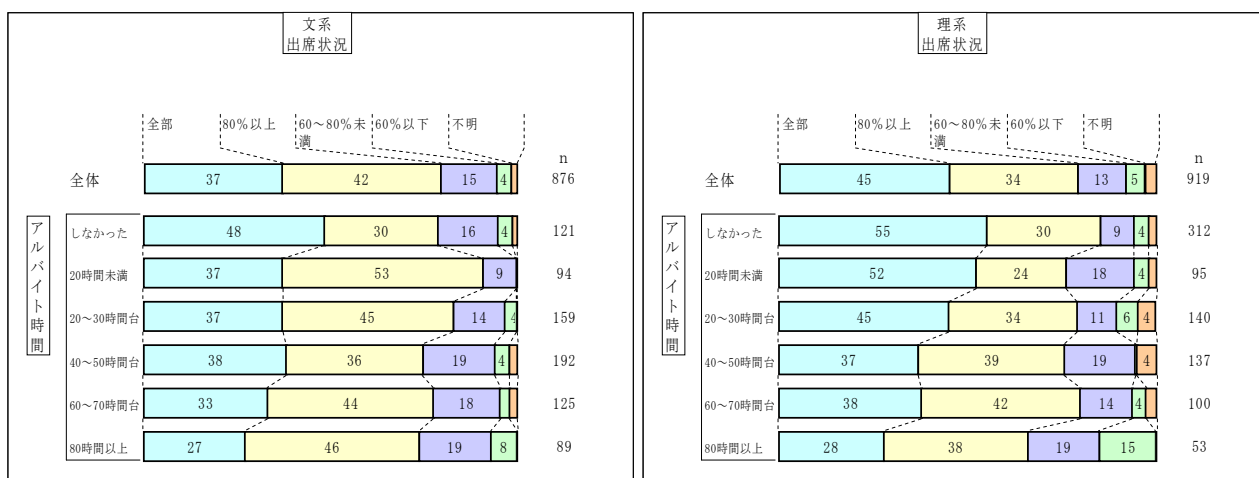
ただ、「両立できている」に着目すると、成績の悪いグループでは文系・理系とも「両立」判断はアルバイト時間に左右されている（アルバイト時間が短いほど「両立できている」）のであるが、成績上位のグループ（グラフ下段）になると文系と理系とで差が出てくる。すなわち、文系ではやはりアルバイト時間の影響が強いのであるが、理系では、アルバイト時間による「両立できている」の割合の差がなくなっているのであり、成績中位の部分にも既にその傾向は現れている。

つまり、「両立」に関して、理系では成績評価がかなり強い判断基準になっているのに対して、文系では成績評価が判断基準としてあまり信頼されていないということになるだろうか。たとえば、グラフの中にnで示した対象者実数からわかるように、理系の「A～A+」は対象者全体の28%にとどまるのに対し、文系では55%にも及んでいるのである。また、文系で論述試験が多いのに対して、理系の試験は客観テストが中心である。

振り返って言えば、このことと、理系学部において、成績に影響を与える要因として、授業出席状況以外のアルバイト時間や読書時間といった要因が明確な像を結ばなかったこと、文系学部においては、読書時間、アルバイト時間が成績にそれなりの影響を与える余地があったこと、とは何らかの対応関係を持っているように思われる。

ともあれ、アルバイト時間は直接的には勉強成績にはあまり大きな影響を与えていないらしいことが分かった。出席状況が大きな影響を与えている。では、出席状況はいかなる要因によって左右されるのか。

図Ⅱ-3 アルバイト時間の授業出席状況への影響



図Ⅱ-3 からわかるように、アルバイト時間の長短が授業出席状況にかなりの影響を与えている。その傾向は文系より理系でやや強いようである。アルバイトの学業成績の直接の影響はあまり鮮明でないが、授業出席状況を通じて間接的に影響を与えていると考えられる。もっとも、その影響の大きさは、ここで行っているようなクロス集計を重ねる分析の仕方では、はっきりしない。

また、アルバイトと成績の関係はここまで想定してきたような「アルバイト→学業成績」という筋道ばかりではない。「学業の不振→アルバイトへの逃避」あるいは「学業軽視→アルバイトに傾斜」という逆の筋道も考えられる。出席状況もまたしかり、「学業不振→出席意欲低下」という因果関係も想定できる。

とすれば、勉学が振るわなかったり、学業に意義を見出せない学生について、その理由を探ることが別途行われなくてはならないだろう。

この節では、成績と成績に影響を与えそうな要因の間の主たる相関にだけ着目してきたわけだが、主たる相関から外れる部分にも大きな課題が存在していることを忘れてはならない。すなわち、全体から見ればいずれも小数であろうが、アルバイトもしない、読書もしない、授業にも出席しない成績の振るわない学生、あるいは、授業によく出て、勉強のための読書もしているのが成績が振るわない学生、こうした学生への生活・学習指導の問題である。

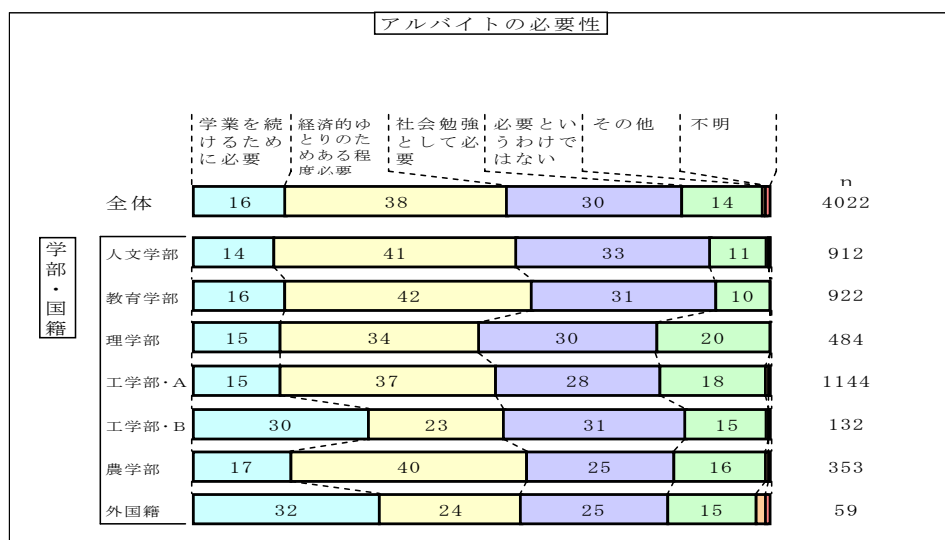
2 学部別にみた茨城大生のアルバイトと学業

まず、本節の導入として、すでにI章でみた〈アルバイトの必要性〉と〈アルバイト時間〉についての集計結果だけをもう一度掲げておく。

● アルバイトの必要性

問 24 <全員にうかがいます>あなたは、自分の学生生活でアルバイトは必要と思いますか。ひとつだけ選んでください。

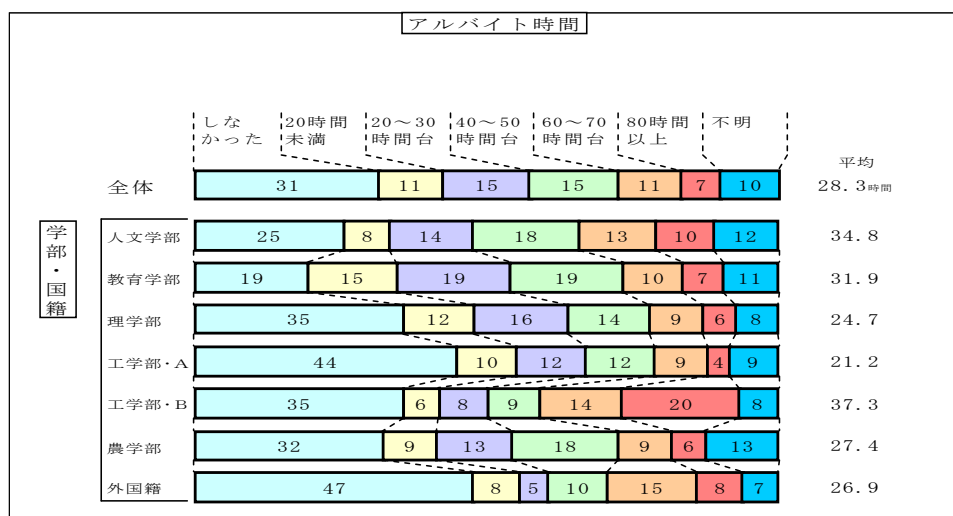
1. 学業を続けるために経済上、どうしても必要
2. 経済的ゆとりのために、ある程度必要
3. 社会勉強として必要と思う
4. どうしても必要というわけではない
5. その他（具体的にマークシート裏面に）



● アルバイト時間

問 20 <問20～問22は今年前期にアルバイトをしたことがある方にうかがいます>今年の前半学期（4月～7月末）の1ヵ月あたりのアルバイト時間はどれくらいでしたか。4月～7月末の4か月を通して平均した1ヵ月あたりのアルバイト時間を教えてください。30分未満は切り捨て、30分以上を切り上げて、1時間単位でお答えください。100時間を超える場合は99時間としてください。月平均30分未満の人は0時間としてください

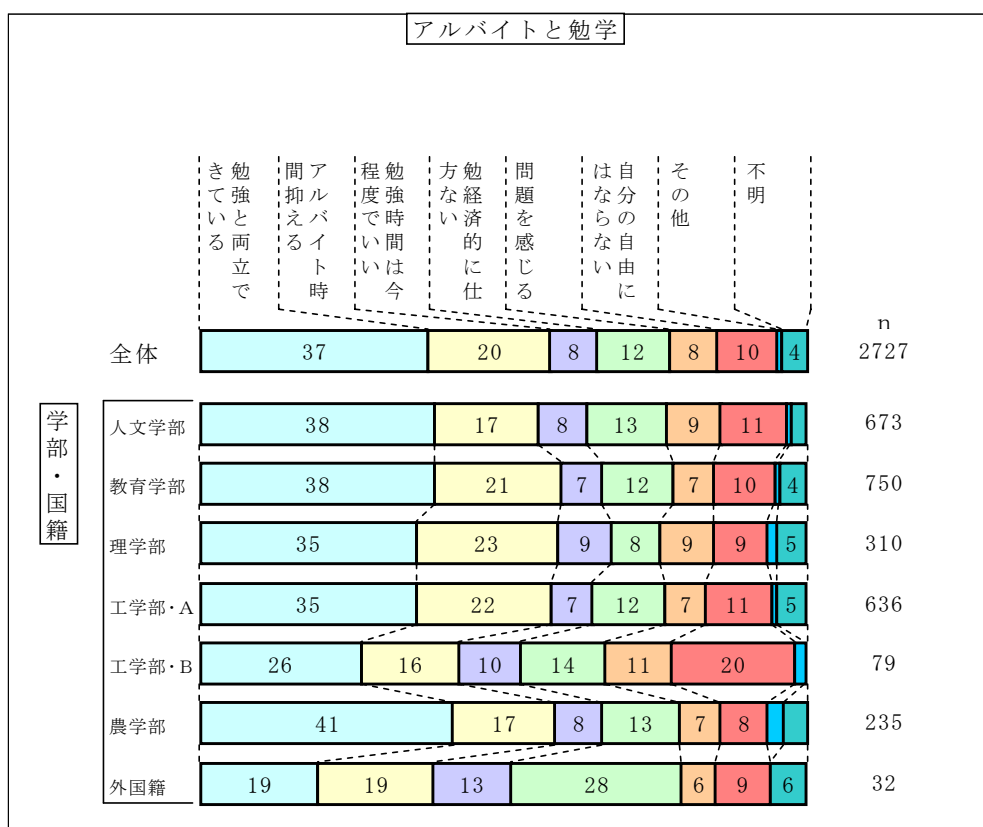
1ヵ月に 時間くらい



● アルバイトと勉学の両立

問 21 アルバイトに時間がとられて勉強の時間が少ないと感じたことがありますか。あなたの気持ちに一番近いものをひとつだけ選んでください。

1. 必要なだけアルバイトをしながら、必要なだけの勉強と両立できていると思う
2. もっとアルバイトをしたいのだが、勉強と両立できる程度にアルバイト時間を抑えている
3. アルバイト時間が多い気はするが、勉強の時間は今程度でいいと思う
4. 勉強の時間をとられていると感じるが、学生生活を続けていくためには経済的に仕方がない
5. アルバイトに時間をとられ十分な勉強の時間がなくて、問題を感じている
6. アルバイト時間が必ずしも自分の自由にはならず、勉強時間を圧迫することもある
7. その他（具体的にマークシート裏面に）



一般学部生（Bコース以外の日本人学生）について見ると、学部間の差はほとんどない。「必要なだけアルバイトをしながら、必要なだけの勉強と両立できている」が最も多く、 $38 \pm 3\%$ で、ついで「もっとアルバイトをしたいのだが、勉強と両立できる程度にアルバイト時間を抑えている」が $20 \pm 3\%$ となっている。

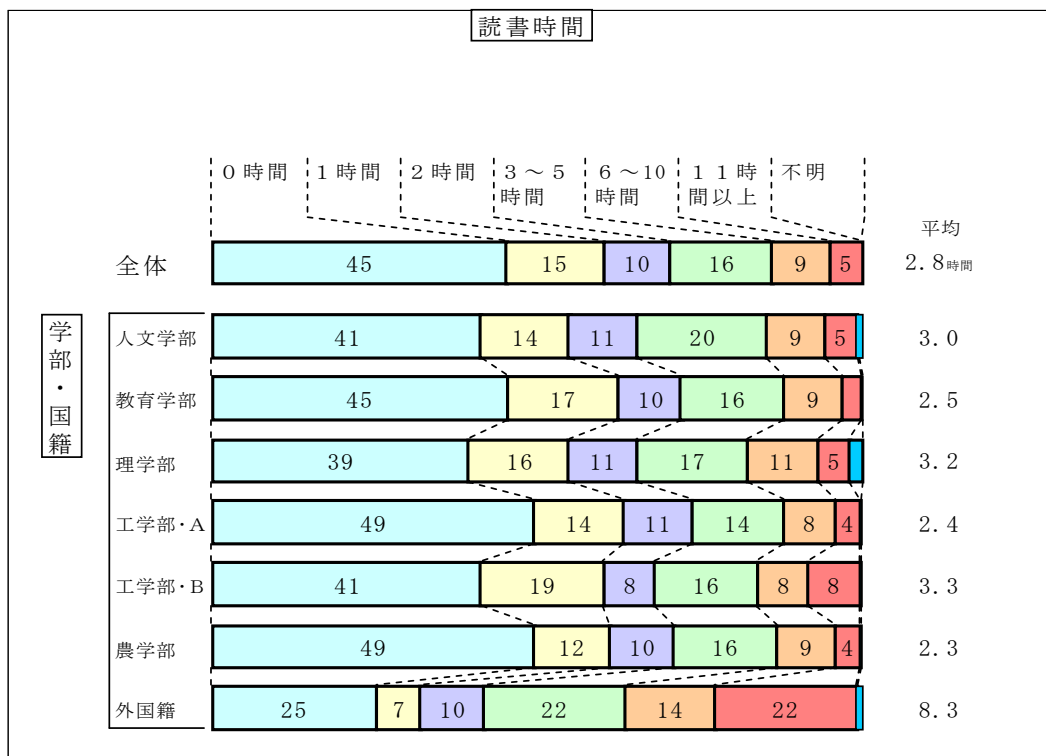
これらに比べて、夜間主コースの工学部 B コース生の場合、「勉強と両立できている」が一般学部生より 10 ポイント強少なく、代わりに「アルバイト時間が必ずしも自分の自由にはならず、勉強時間を圧迫することもある」が 10 ポイントほど多い 20%となっている。昼間の定職に近いアルバイトもしくは定職に就く学生の事情であろう。

外国人学生は、「勉強と両立できている」がさらに少なく、一般学部生より 20 ポイント差の 19%。代わりに「勉強の時間をとられていると感じるが、学生生活を続けていくためには経済的に仕方がない」が一般学生より 20 ポイント近く多い 28%となっている。

● 勉強のための読書

問 26 授業時間以外に勉強のための読書をどのくらいしますか。

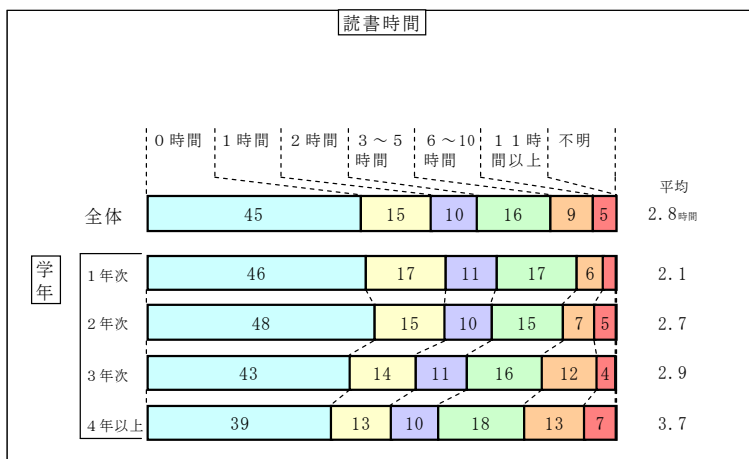
週 時間くらい (試験期間中以外は勉強の本を読まない場合は0時間と記入)



日本人学生では、1週当たりの「勉強のため」の読書時間は平均2.7時間にすぎない。学部によって幾分の違いがあり、例えば「0時間」という者はおよそ4割～5割にばらついている。平均時間には2.3時間～3.3時間の開きがある。

外国籍学生の読書時間は平均で8.3時間、日本人学生の3倍強である。「0時間」は25%に過ぎず、「11時間以上」が22%、「6時間～10時間台」が14%と、あわせて36%をしめている。この読書時間には、日本語という外国語による勉学のハンディを埋めようとする努力が含まれている。

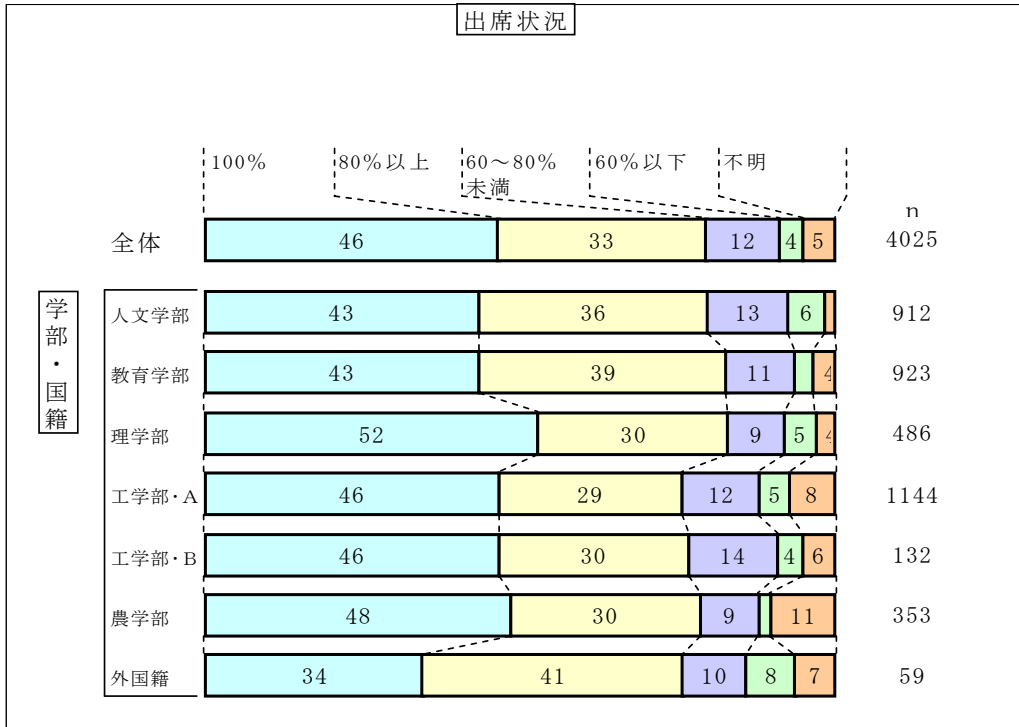
学年別には、学年があがるほど読書時間が長くなる。勉学の中心である3年生においても4割強が「0時間」である点など、まだまだ不十分ではあるが、学年が進むにつれて、家庭学習の必要性が次第に自覚されていく傾向と見られることもできる。



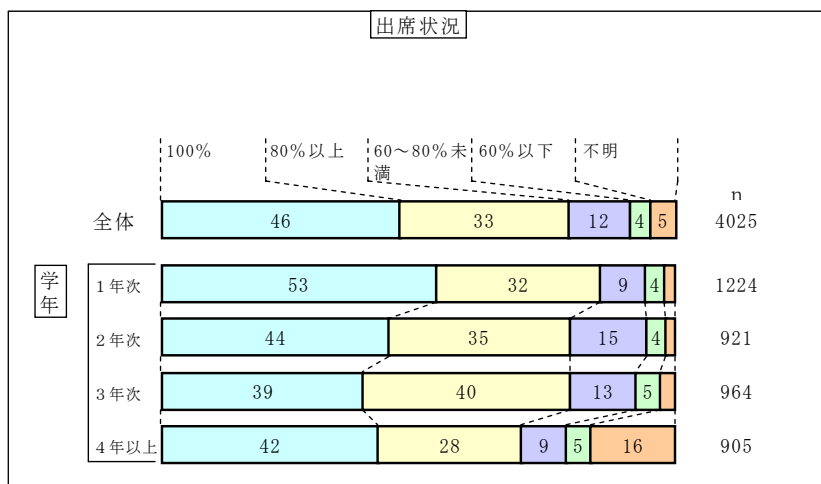
● 授業出席状況

問 29 今年前期、履修申告をした授業で授業回数の80%以上出席した授業（一般には欠席3回以下の科目。教育実習等での欠席は分子・分母から除いてください）は履修科目数の何%くらいでしたか。

1. 100% 2. 80%以上100%未満 3. 60%以上80%未満 4. 60%以下



[問 29]のような形で授業への出席状況を聞いたところ、各学部 4 割～5 割の学生が全ての科目に授業回数の 80%以上出席していることが明らかになった。特に出席率が高いのは理学部であったが、総じて理系学部の出席状況の方が、文系学部のそれより、良くなっている。外国籍学生の出席状況がやや悪いのが気になるところである。

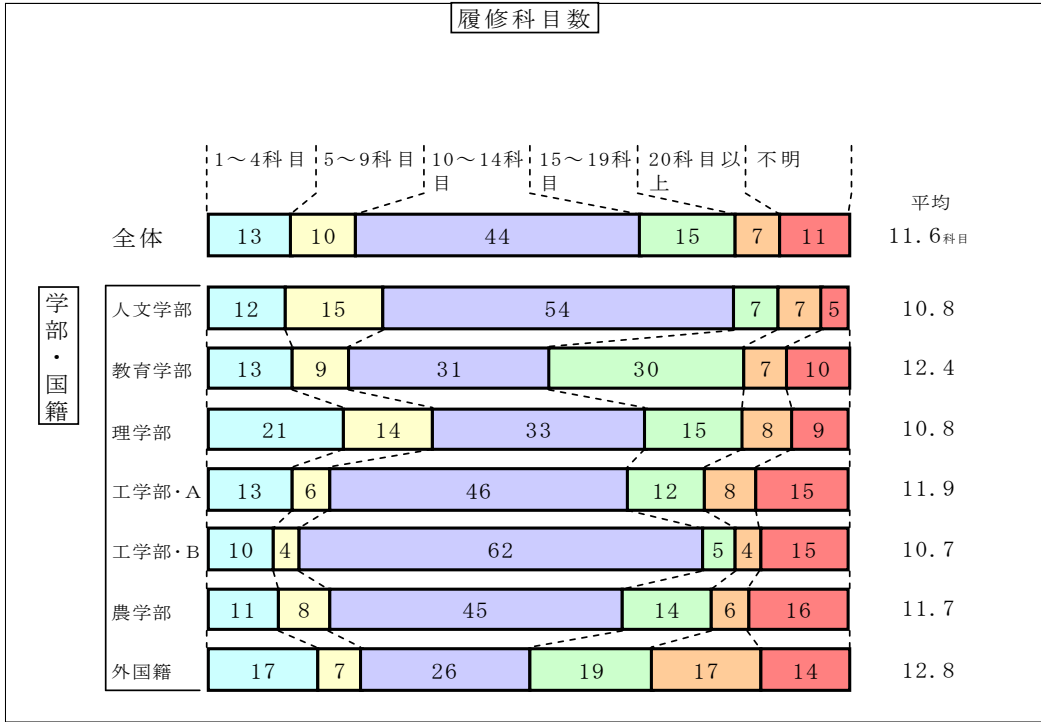


学年別では、学年が進むと出席状況が次第に悪化していくが、しかし、最終学年 4 年生で少しだけ回復している。

● 単位取得率

問 27 今年前期に単位が取れた科目は何科目くらいですか。

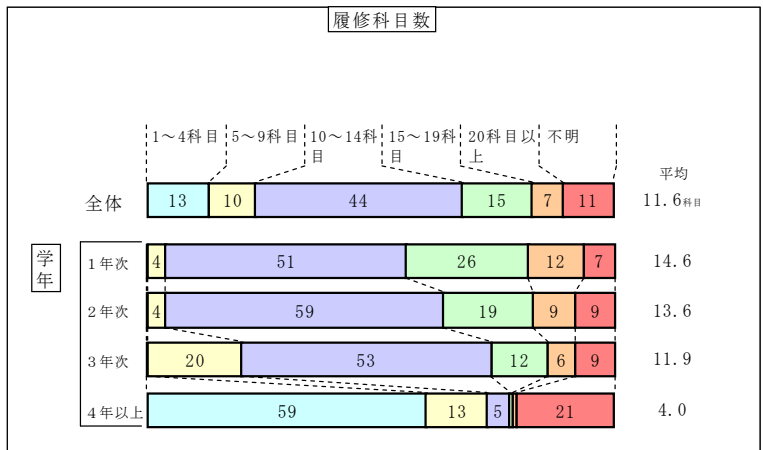
履修申告 科目に対して、合格した（単位がとれた）科目は 科目



申告科目数は、教員養成カリキュラムへの対応のため教育学部が突出している。他の学部の差はそれほど大きいとはいえない。理学部で履修科目数の少ない学生が幾分多いのは、回答者中の4年生の構成比が幾分高いためもあるだろうか。外国籍学生は20科目以上申告したものが17%と多くなっている。

全体では「10～14科目」が4割強をしめて、最も多くなっている。ついで「15～19科目」が15%である。

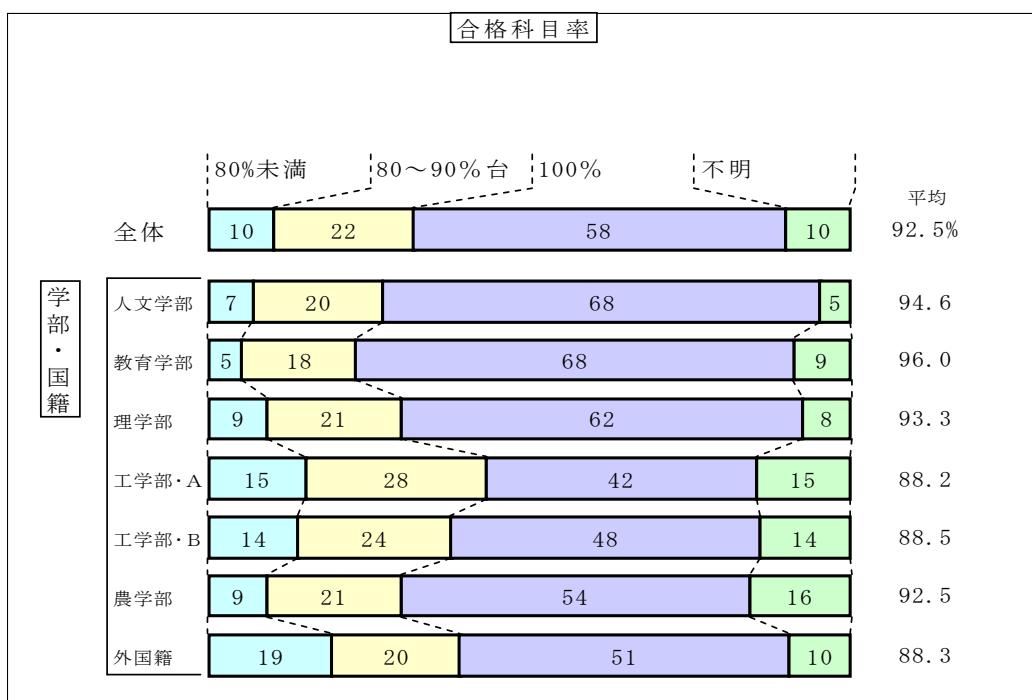
履修科目数は、4年生になるとかなり減ることが知られている。学年別に見たのが右のグラフである。「1～4科目」の履修というのは全て4年生であり、これが4年前期ですでに6割を占めている。履修単位数が学年に応じて減少していくことがわかるが、1年あるいは2年の前期から「5～9科目」という学生も少数ながら存在し、注意を要する。



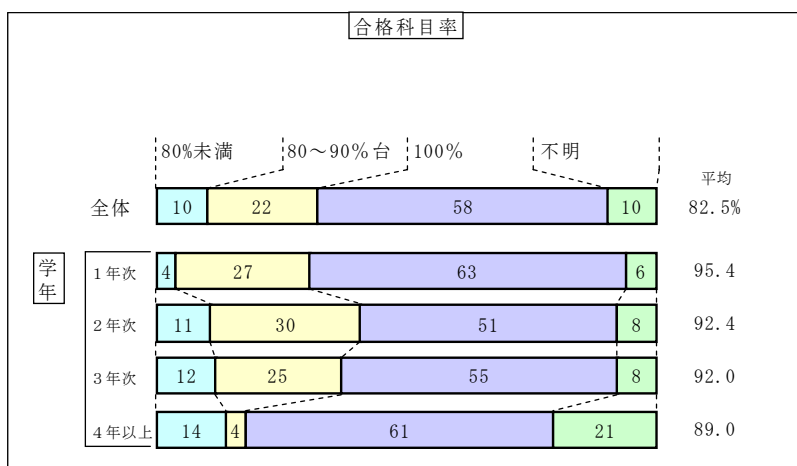
[問 27]の合格科目数を履修科目数で叙して〈合格科目率〉を算出した。グラフに見られるように、全体としてみれば、およそ6割の学生が、履修科目全てで合格点を取っている。

「80%未満」の者が工学部に多いのは、JABEEへの対応など、評価面での「実質化」も進めつつあることの反映でもあろう。

外国籍学生の「80%未満」が2割近くに達している。外国籍学生の半数以上が工学部学生(回答者外国籍学生59名中30名)であるが、これら工学部両コース学生と他の学部(29名)とに分けて「80%未満」の比率を見ると、工学部外国籍学生では10%、他の学部合計では29名中8名の28%となっている。外国語での学習等さまざまなハンディを負う外国籍学生に対するいっそうきめ細かな対応が必要であらう。



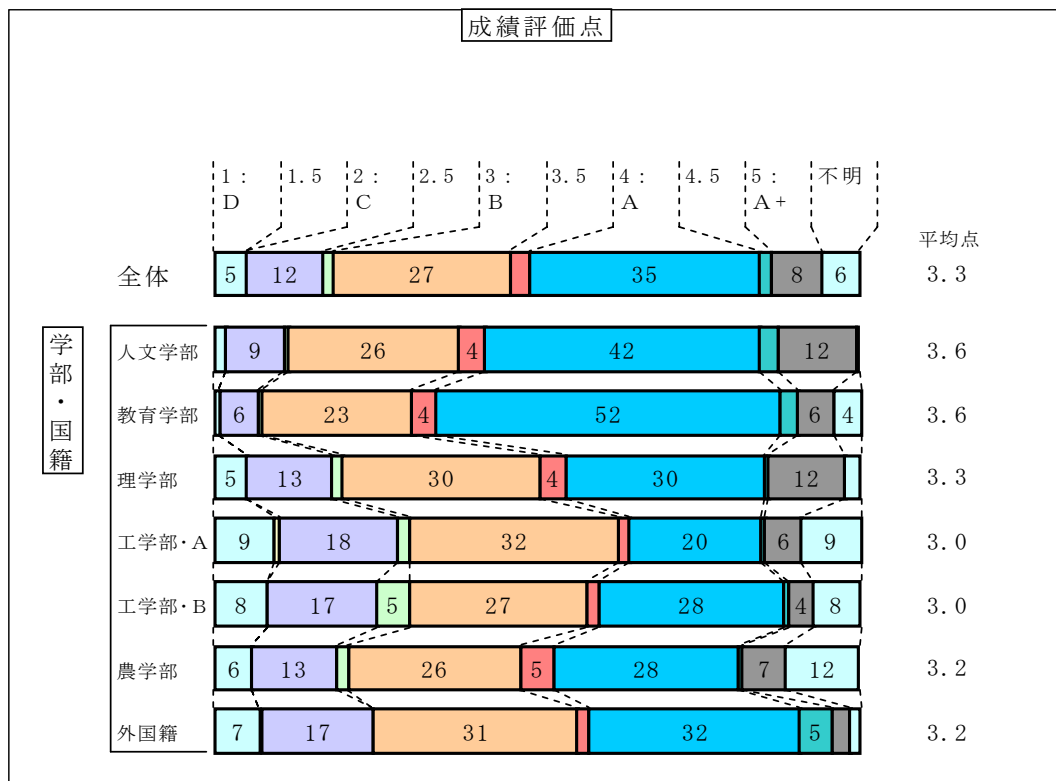
全学学生を学年別に見たのが右のグラフである。大方の学生・教員が予想したであろうように、学年が進むにつれて、合格科目率はやや低下していく。ただ、「100%」についてみると、その割合が2年生で比較的大きく減少し、そのあと徐々に回復している。2年生という学年の特殊な位置を示しているようか。



● 成績評価

問 28 今年前期に取得した単位の評価はだいたいのところDからA+のどれが多かったですか。(多い山が二つあって、どちらが多いともいえない場合、二つに○をつけてください。)

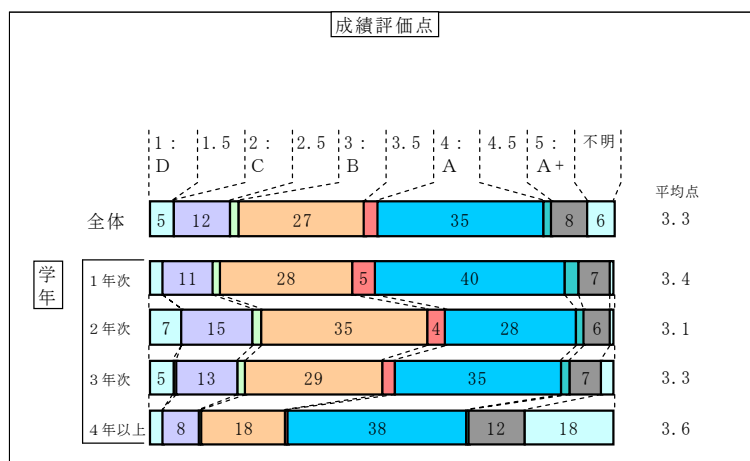
1. D 2. C 3. B 4. A 5. A+



この設問の回答は、成績「D」～「A+」に1点～5点の点数を与え、二つに○をつけた回答は両者の平均をとって成績評価とした⁴。平均もこの点数によって算出してある。

グラフから文系学部と理系学部とで成績水準が異なることがわかる。それが1節で文系と理系を分けて検討した理由であるし、また1節で述べたように、試験の標準的なやり方が異なるからであろう。

学年別には、前項の合格科目率と同様に、2年次で一端下がって、その後学年が進むとともに上昇している。新生へへのケアとともに、専門課程導入へのケアもまた必要とされるということであろう。



⁴ グラフの選択肢カテゴリーに「2.5」「3.5」などがあるのはそのためである。なお、たとえば「2.5」の場合、DとAおよびCとBという組み合わせで○をつけた両方が含まれる。さらに「3=B」の場合は元々Bと回答した者の他にDとA+およびCとAという回答が含まれる。「2=C」「4=A」についても同様である。

Ⅲ 当面の学内課題に関する質問

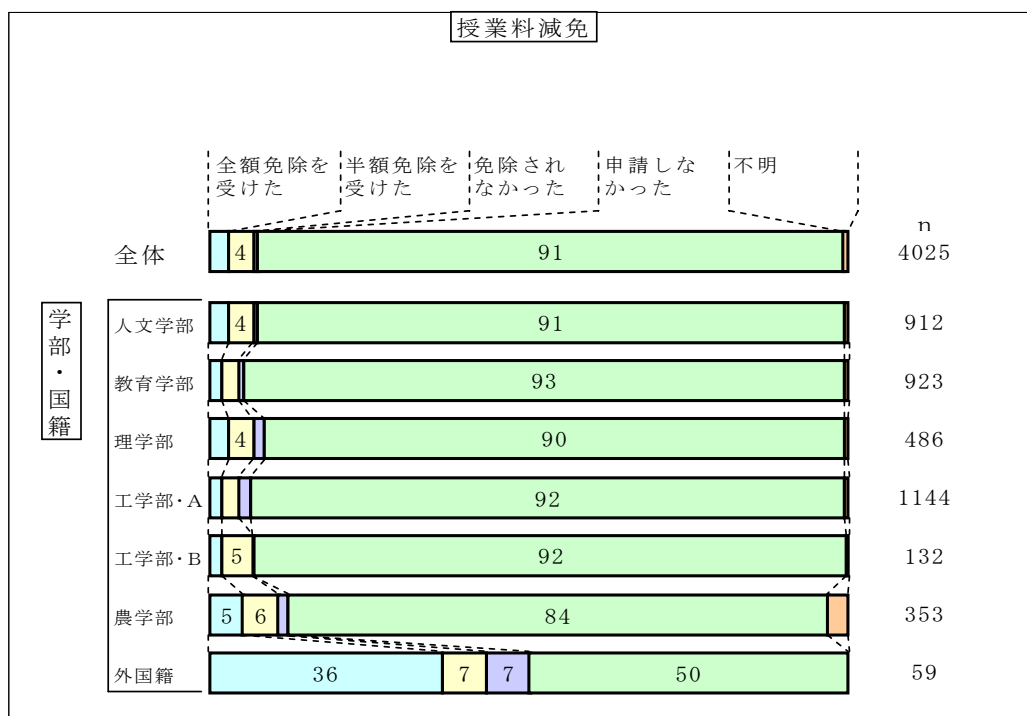
ここでは、学生支援の上で調査当時懸案事項となっていた事案のうち3つの課題に関して、学生の意見を徴した設問を取り上げている。3つの課題は、授業料免除制度に関する問題、学生寮改築に関する問題、学生駐車場設置に関する問題である。

1 授業料減免制度の利用と制度への意見

● 授業料減免制度の利用状況

問 17 あなたは今年度前期の授業料の減免を受けましたか。

1. 全額免除を受けた
2. 半額免除を受けた
3. 申請したが免除されなかった
4. 申請しなかった



全体では、「全学免除」3.1%、「半額免除」3.7%、「免除されなかった」1.5%、「申請しなかった」が90.7%となった。免除を受けた者の割合は少ないが、日本人学生の中では、農学部やや多く免除者がいる。

外国籍学生では「全免」が36%、「半免」が7%となって、この率の高さに留学生の経済的困難が現れている。調査回答者中の外国籍学生は59名にとどまるため免除者の割合が非常に高く出ているが、回答者ベースでの免除者等の実数は右の表の通りである。

授業料減免状況

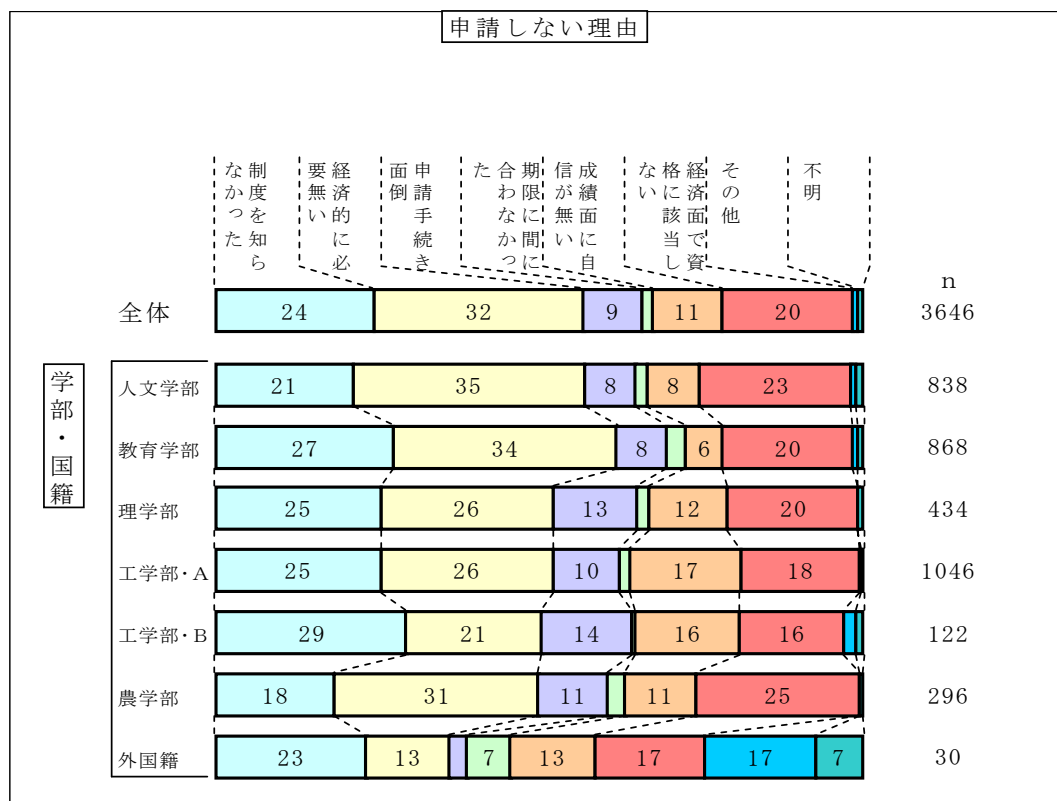
	全額免除	半額免除	免除されなかった
日本人学生	101	144	53
外国籍学生	21	4	4

学年別にはほとんど差はない。「申請しなかった」が1年生の93%から3~4年生の90%へとやや減少し、その分、免除者が増えてくるといった、わずかの違いに過ぎない。

● 授業料免除申請をしなかった理由

問 18 <授業料減免の申請をしなかった人にかがいます> 授業料の減免を申請しなかった理由は何ですか

1. 制度を知らなかった
2. 経済的に減免を受ける必要がなかった
3. 申請手続きが面倒だから
4. 申請期限に間に合わなかった
5. 申請資格の成績面に自信が無い
6. 経済面で申請資格に該当しないようだから
7. その他（具体的にマークシート裏面に）



授業料減免の申請をしなかった理由のうち、「経済的に必要ない」（全体の 32%）、「経済面で申請資格ない」（同 20%）は特に問題とする必要はない。やはり「制度を知らなかった」（同 24%）が問題となろう。該当者は全体では 4 人に 1 人だが、学部によって幾分の違いがあり 2 割～3 割の範囲に分布している。もちろん、このなかで「制度を知っていれば申請した」という者はもっと少ないであろうが、それにしても、よりいっそうの周知をはからなくてはならない。

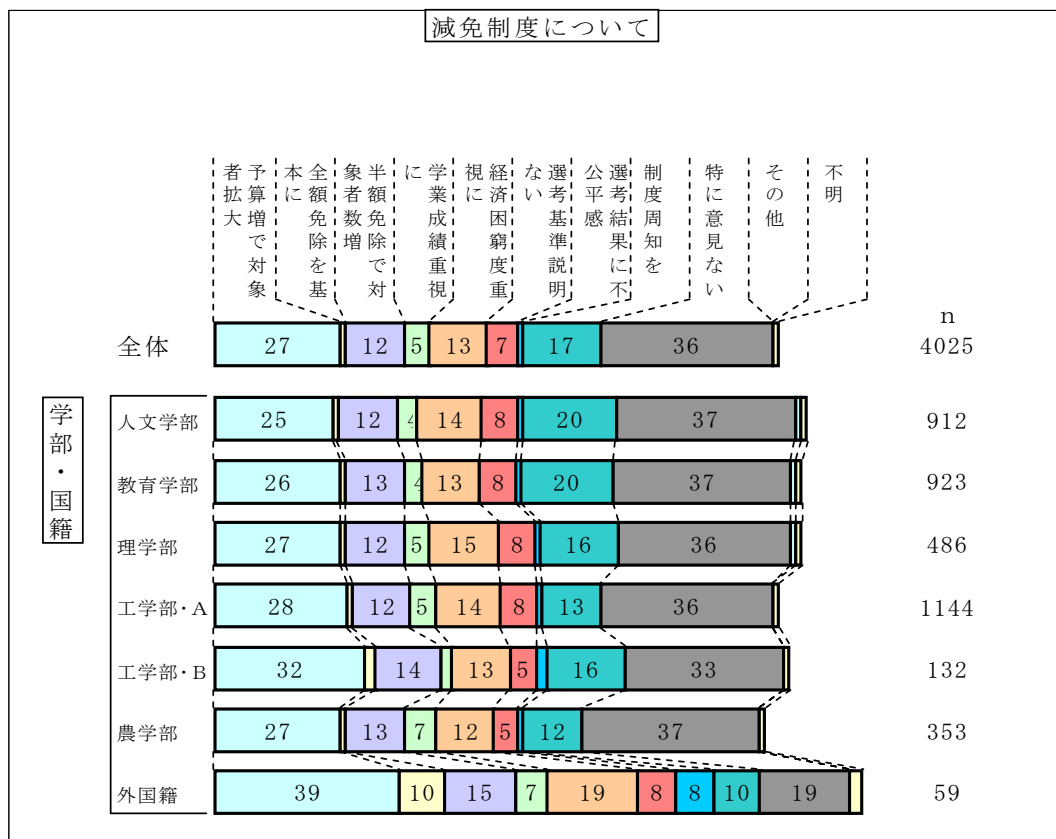
そのほかの理由では「成績面に自信が無い」が全体で 11%、「申請手続きが面倒」が 9% となっている。前者「成績面の自信」については、工学部学生でやや多くなっている。先にも見たような、理系と文系の成績評価基準の差のようなものが恒常的にあるとすれば、授業料減免の成績基準にその点が織り込まれる必要があるかもしれない。

学年別には、「制度を知らなかった」者が 1 年では 28%、2 年 22%、3 年 20%、4 年 24% となった。1 年生への制度周知を徹底することで、2 年生以降の知らない者の数を減らすこともできよう。他の理由項目について、学年別に取り上げるべき差はない。

● 授業料免除制度についての意見

問 19 <全員にうかがいます> 茨城大学の授業料減免制度についてのご意見を伺います。該当するものいくつかも選んでください。

1. 予算を増やして対象者数を拡大してほしい
2. 対象人数が減っても全額免除を基本にして欲しい
3. 半額免除を基本に対象者数を増やして欲しい
4. 選考基準のなかで学業成績にもっとウエイトをかける
5. 成績よりも経済困難度にもっとウエイトをかける
6. 選考基準の説明がない
7. 選考結果に不公平を感じる
8. 授業料減免制度があることをもっと周知すべきだ
9. 特に意見はない
10. その他（具体的にマークシート裏面に）



3分の1以上が「特に意見はない」としているが、意見・要望のなかでは「予算増で対象者拡大」が最も多く全体の27%、ついで「もっと制度の周知を」が17%であった。

検討の俎上にあった全額免除重視・半額対象者数増重視の対比では、後者「半額免除で対象者数増」を選択するものが多く（12%）、学業重視・経済困難度重視の対比では「経済困難度重視に」がより多く（5%対13%）選択された。

不満という点では、「選考結果に不公平感」を訴える者は多くはなかったものの、「選考基準の説明がない」との指摘が7%ほどあった。

これらの意見の分布に学年による差はほとんどない。

2 学生寮入寮希望

問 7 <「学生寮・国際交流会館」以外のひとにお聞きします> 学生寮に空きがあれば入寮したいですか、入寮したくありませんか。またその理由も教えてください

1. 入寮したい

その理由は

1. 住居費が安く済むから
2. アパートの一人暮らしは不安だから
3. 友達を作りやすいと思うから
4. 集団生活がしてみたいから
5. その他（裏面に具体的に）

2. 学生寮に入りたくないと思わない

その理由は

1. 自宅から通えるので
2. 一人暮らしがしたいから
3. 相部屋は嫌だから
4. 集団生活が苦手だから
5. その他（裏面に具体的に）

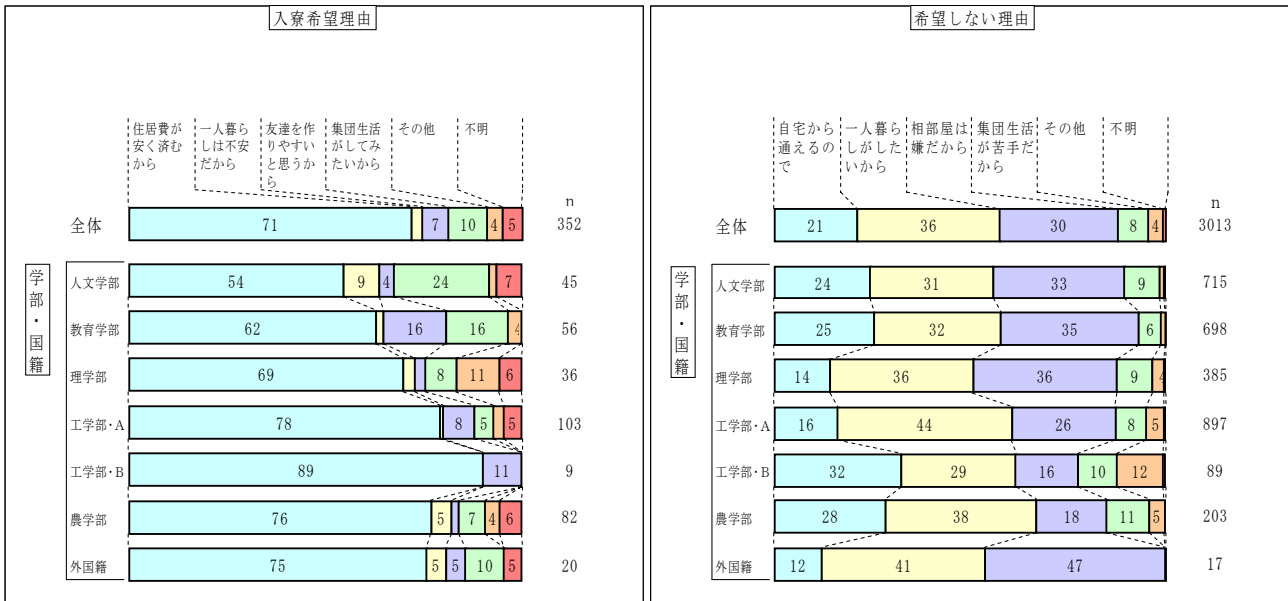
入寮希望の有無を聞いた結果は右の表のとおりである。農学部に入寮希望が多いのは、近辺に生活の不便を感じないアパートが少ないからだろうか。外国籍学生の入寮希望は経済的背景が大きいであろう。ともあれ、空きがあれば入寮したいという者が、すでに学生寮を利用している者以外に、350人に上るといのは、近年の経済状況の低迷にもよるのであろう。

学生寮入寮希望状況

	入寮したい	入寮したくない	不明	入寮したい(人数)
[学部・国籍]計	9.1	78.1	12.8	352
人文学部	5.1	80.2	14.7	45
教育学部	6.2	77.2	16.6	56
理学部	7.6	81.3	11.2	36
工学部・A	9.3	81.2	9.4	103
工学部・B	7.7	76.9	15.4	9
農学部	26.2	64.9	8.9	82
外国籍	48.8	41.5	9.8	20

入寮を希望する理由・希望しない理由は下の図に示されるような結果となった。まず入寮を希望する理由では、希望者の7割もがやはり経済的理由「住居費が安く済む」を挙げた。文系学部でこれが幾分少ないが、その分、「集団生活がしてみたい」「友達を作りやすい」が多くなっている。工学部Bコースでは「住居費が安く済む」が9割に上った。

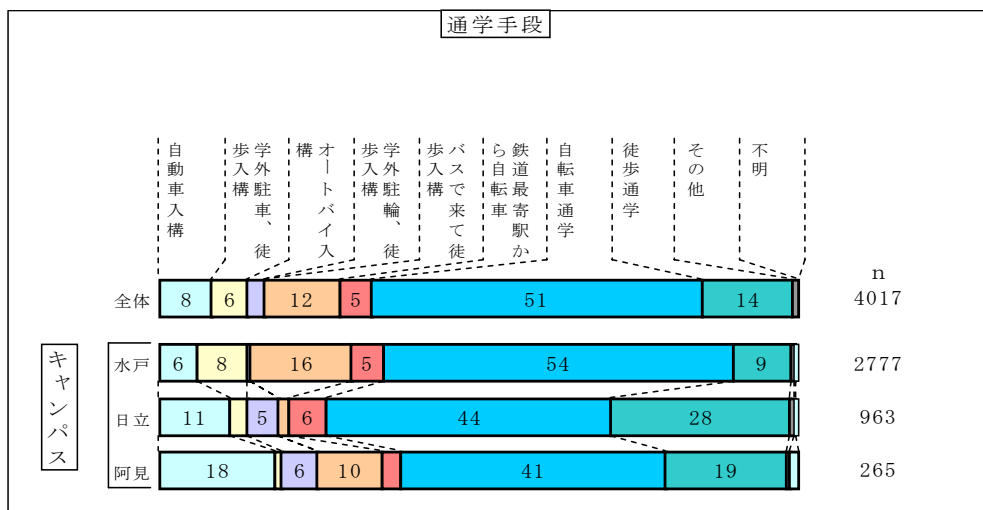
入寮を希望しない理由では、希望しない者の3割が「相部屋は嫌だから」という理由を選択した。「集団生活が苦手」を挙げたものも8%ほどある。今後とも、大学学生寮の一人部屋への改造が進められていくことになる。



3 自動車通学と駐車場

問 3 あなたは普段どんな手段で大学にきていますか。大学近くでの交通手段を教えてください。自転車通学（選択肢6～7）と自動車通学（選択肢1～2）を間違えないでください

1. 自動車が入構
2. 近くまで自動車に来て学外に駐車、徒歩または自転車で入構
3. オートバイが入構
4. 近くまでオートバイに来て学外に駐輪、徒歩または自転車で入構
5. バスで来て徒歩で入構
6. 鉄道最寄駅から自転車で入構
7. 自転車通学
8. 徒歩通学
9. その他（具体的にマークシート裏面に）



大学近くでの交通手段を聞いた[問 3]は、通学手段を一般的に聞くことだけを意図したものでなく、「入構」手段を聞くことによりかなり比重をおいたものである。ただし、自動車とバイクについてはそれらで直接に入構する場合ばかりでなく、大学近くまで自動車もしくはバイクで来て学外の駐車場、駐輪場で下車して（徒歩・自転）入構するケースを把握しようとした。構内の駐車場・駐輪場ニーズを潜在的なそれも含めて把握しようとしたからである。事柄の性質上、キャンパス別に見なければならぬ⁵。

いずれのキャンパスでも「自転車通学」が主流で、「鉄道駅から自転車」という者を含めると4割台半ばから6割が自転車で入構している。水戸キャンパスは「自動車で来て学外駐車」(8%)および「バスで来て徒歩入構」(16%)が多いのが特徴であり、「徒歩通学」が比較的少ない。日立キャンパスの場合、自転車について「徒歩通学」が3割近くを占め、また「自動車入構」が1割強に上っている。阿見キャンパスは「自動車入構」が2割近くにまで達し、また「バスで来て徒歩入構」も1割と比較的が多くなっている。

ただ、注意を要するのは、例えば水戸キャンパスでは、「自動車入構」と回答した者の数（アンケート回答者の数で180名）が学生向け自動車入構許可証の発行部数の3倍にもなっていることである。そして次に見るように、この[問 3]に「自動車入構」と回答した者の3人に1人が、[問 4]の「大学構内に駐車できれば自動車通学がしたいか」という質問に「そうしたいが自動車がない」と答えており、4割は「そうしたくない」としているのである。このような矛盾した回答のうち比較的多くをしめるのは、自転車通学者が間違えて「自動車入構」と答えてしまったケースであろう。

⁵ キャンパス別集計では、工学部Aコース1年生および農学部1年生を水戸キャンパスに加えて集計した。

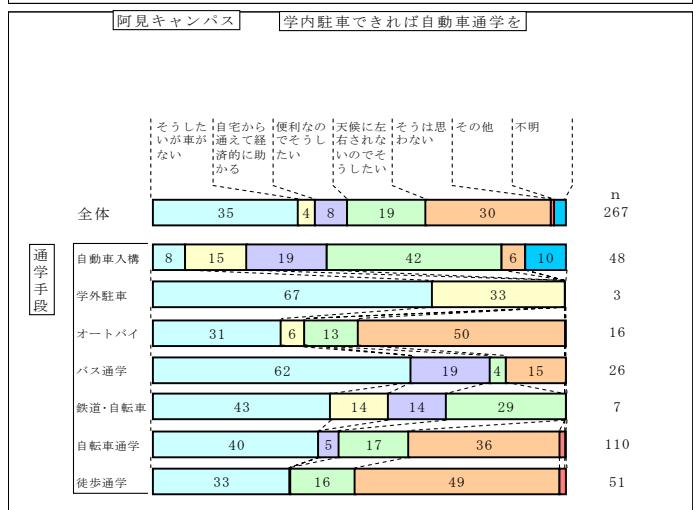
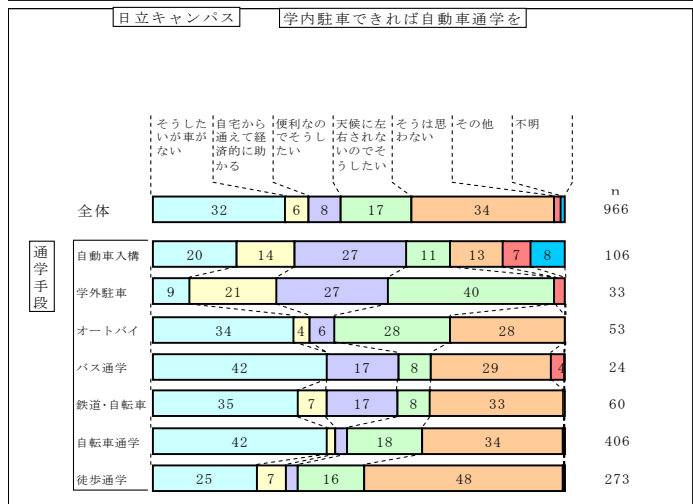
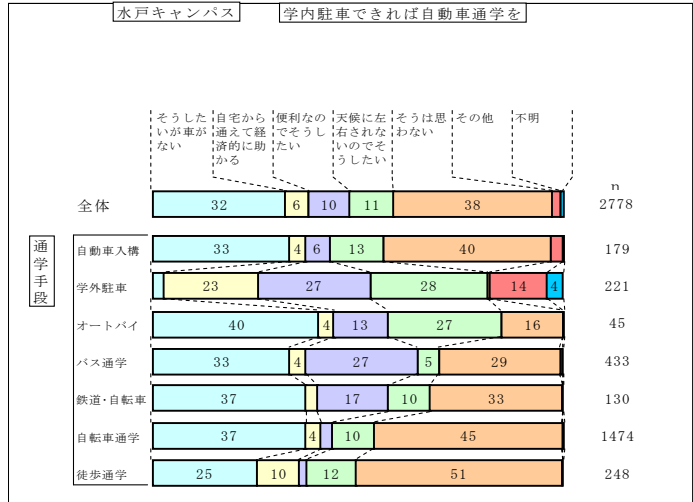
問 4 学生も大学の駐車場を利用して自動車通学ができるようになれば、自動車で通学したいと思いますか

1. そうしたいが、自由に使える車がない
2. 自動車ならアパートを借りなくても自宅から通えて経済的にも助かるので、そうしたい
3. 公共交通機関を使うより便利なので、そうしたい
4. 天候に左右されず楽なので、そうしたい
5. 自動車通学をしたいとは思わない
6. その他（具体的にマークシート裏面に）

上述のような状況から、この[問 4]「構内駐車が可能になったらどうしたいか」という質問への回答は、「自動車で入構」以外の通学手段をとっている学生のどれだけが、自動車通学への転換を希望しているかを見ることに限定してたどってみよう。

まず、水戸キャンパスについて、予想どおりであるが、「自動車学外駐車」者 200 人強のほとんどは「自動車入構」を希望している。「オートバイ」通学 45 人の 4 割強が自動車通学にしたいとしていて、4 割は「そうしたいが自由になる車がない」となっている。バス通学、鉄道→バス、鉄道→自転車という学生も自動車通学を望む者が少なくない。バス通学もしくは鉄道→バスの 400 名あまりのうち、3 分の 1 強は自動車入構を希望し、また、鉄道→自転車という 130 名の場合も、3 割が自動車入構を希望している。自転車通学約 1500 名の 17%250 人近くが自動車入構を希望する。徒歩通学者でも、およそ 4 人に 1 人が自動車入構を希望しているのである。特に徒歩通学者の場合、「自動車ならアパートを借りなくても自宅から通えて、経済的に助かるので」という理由で自動車入構を希望する者が 10%になっている。

これら自動車入構が許可されるならば自動車入構したいという者は、水戸



キャンパス通学の回答者 2780 名のうち、すでに自動車で購入している者をのぞいて 690 名にも達し、さらに、今は「自由に使える車がない」けれども「そうしたい」希望はあるという者が 800 名を超える。

同様に日立キャンパスについては、回答者 966 名のうち、新たに自動車購入希望者 240 名、「車がない」が 280 名ほどとなる。阿見キャンパスでは 267 名のうち、順に 50 名弱と 90 名弱になっている。

回答率が 6 割に満たないことを考えると、実際の学生数に還元した自動車購入希望者数は膨大なものとなろう⁶。

⁶ しかし、この自動車通学希望者の数に驚くにはあたらない。この車社会にあつて、たとえ学生といえども、教員・職員が、公共交通機関があつても、自転車で通勤できる距離であつても、ごく当たり前のように自家用車通勤を希望するのと同じことである。

IV 大学へのサービスの要望

問30 〈シート裏面に自由記入〉あなたがこれから学生生活を送るうえで、必要とするサービスや、充実を望むサービスは何ですか。特に経済面で困っていることや大学に要望したいことはありますか。希望する事柄や困っている事柄を具体的に記入してください。

携帯の電子板の活用
大学生協をもっと充実させて欲しい、大学を介してアルバイトの募集を、もっと目立つようにやってほしい
教育学部ゼロ免の課程だったのですが、教職を取るために何の授業が必要で、今履修出来る授業は何で、もうすでに取得済みの授業は何なのか、すぐにわかるパソコンシステムを作っていただけると、今後役立つのではないのでしょうか。説明を聞いたり、自分で何度も調べたりして本当に大変でした、特に心理コースでの幼稚園教諭の取得方法を、もっともっともっとわかりやすくしてほしい
授業料に関して、期限以内に納入出来ないと除籍になるという事を、もっと強調してほしいです、他には、転学科等を考えている学生にたいしての相談等のサポートを充実して欲しいです
予防接種等の情報を知らせてほしい
自由に大学内に自動車で出入りできるようにしてほしい
図書館でカラーの印刷ができるようにしてほしい
生協のお弁当の値段を元に戻してほしい
コンビニと本屋の営業時間をもっと長くしてほしい
免除のことをもっとみんなに知らせてほしい
就職活動情報の提供
授業料の免除や奨学金の申請の窓口をもっと分かりやすくしてほしい
アルバイトの情報をもっと増やしてほしい
学生課の前の求人コーナーは2人以上で見ることができないので、もう少しスペースを広くするか、求人用紙を何枚かずつ用意して混んでいる時でも見られるようにしてほしい
単位の救済措置
掲示板の電子化(自宅のPCや携帯電話で確認できるように)
駐輪場の整理(撤去タグを取り付けて3ヶ月後に撤去など)
学校をきれいにしてほしい
バイトが見つからないため経済的に困っている
生協の品を定期的に替えてほしい
もっとアンケートを短くしてほしい
授業料が高すぎる
保健サービス(簡単な診察は受けられるように)内科・耳鼻科など
教育実習中の交通費の補助
女子学生寮をもっとキレイに住みやすいものにしてほしい
パソコンが使える場所と時間、プリンターがある場所をもっとふやしてほしい
茨大のホームページで大学の教員の名前や所属、研究室の場所などを調べられるようにしてほしい。これらのことがわからなくて困ることがしばしばある
短期アルバイトの紹介
大学内でも自分のPCからインターネットに接続できるようにしてほしい
家のパソコンがインターネットにつながっていないので、大学のホームページに休講などの案内を載せていただいても見られないので、メール等で連絡してもらえると助かる
アルバイトの募集広告をさまざまな分野で取り上げて欲しい
生協のごはんをもう少し安くしてほしい
著名な方々をもっと多く呼んで講演をやってほしい
わざわざ出席なんてとる必要のないような気がする。出たい人が出ればいいのか？
パソコン室のプリンターをもっといいプリンターにしてほしい
先生の選択
履修申告などの学内限定アクセスはとても不便だから、自宅からでも使えるようにしてほしい
後期の初めのほうに台風で全日休校になったが、その情報を出すのが遅い
もっと早期に休校の判断を出してほしいし、全学生に情報が行くような工夫をしてほしい
情報はレナンドーの特定通知などにも載せてほしい
自ら調べるのが多いので掲示とかで1つにまとめてほしい
無料コピー
生協のサービス向上を望む。生協のコンビニは、商品の値段が高く、品ぞろえもわるい。もっと安く、いい商品を置いてほしい

授業料免除制度や保険の申請の仕方について、もっと説明してほしい。大学生だから自分で調べるのが当たり前なのかもしれないが
A先生の講義は、あまりにもひどすぎると思う。予告なしに休講になったり、テスト中に怒り出したり。
筑波大学くらいの敷地
グラウンドがとても狭い
フットサルコート・自由に使える体育館・トレーニングジムがほしい
学食が狭い
アパートまでの帰り道が街灯が少ないので不安
不審者の情報も出してくれると警戒もできると思う
工学部の研究費を増やしてほしい
日立キャンパスの駐車場が小さすぎる
無意味と思われるアンケートが多いので困る。紙代がもったいないとは思わないのか
生協にある品物の値段をもっと安くしてほしい
図書館(工学部分館)を日曜日も開館してほしい
小遣いがほしい
就職相談の先生が水戸には常にいるのに日立にはいないというのは不公平である。常時いる相談員がほしい
他大学(私立大学)の就職支援を見習ってほしい
英語学習に力を入れてほしい。ALCを家庭でもできる環境など
学習に興味のわくような講師を呼んで講演などを開いてほしい(映画監督・デザイナー・若手実業家・技術者など)
木曜3限、E1棟2階廊下が職員の声で非常にうるさいのでなんとかしてほしい
交通の便が悪く自動車に通学しているが、月々の駐車場が結構高い。できれば、大学で安く又は無料で駐車場を提供してもらいたい
授業内容が不十分(休講ばかりとか)の教科に不満を感じるため、授業料を返してほしいと思うことがしばしばある
インターネットの接続
学食を安くしてほしい
生協以外の飲食店・販売店
学校の単位やテストについてよくわからず、何度も質問にいったので毎回の授業でも分かりやすく説明してもらえるとありがたい
パソコン室と学務係をもっと遅い時間までやってもらえるとありがたい
生活費の一番大きな支出は住居費なので、学生寮の整備・規模拡大をお願いしたい。
新たなサービスの前に職員の態度を改めて欲しい。全体的にとっても悪いと思う。
授業料を単位ずつの計算にして欲しい。要件の単位がそろい次第卒業できるようにして欲しい。(米国のように)
4年間拘束され、授業料を搾取されているように感じる。授業料に見合う教育・サービスを受けられているとは当惑思得ない。茨城大学にも新しい試みをする度胸を持ってほしい
授業料免除申請の対象者数はどれくらいなのか。今まで4回申請して2回半額免除を受けた。半額でも免除をもらえると大変たすかる。もっと対象者を増やして、要件を満たす人がなるべく多く受けられるようにして欲しい
教科書の単価が高い。書籍部で割引にはなるがもう少し安くならないか。使わない教科書を引き取って中古として置いてくれたりしたらうれしい
サークル棟のこと。人数の多い運動部が幾つもあるのに、狭いロッカールームだけでは不便。サークル棟を使っている団体で、本当に必要かと思ってしまうものも幾つかある。ゲーム等をしている(PSP等)様子を見ると、どうなんだろうと思ってしまう。サークル棟でやらなければならないことなのか。家ででもやればいいのかではないか。
サークル棟をきれいにしてほしい。そのために、棟内禁煙・トイレの整備。上の2つは最低限徹底してほしい。大学敷地内全面禁煙にしてほしい
図書館以外でのプリンタ(印刷場所)を増やしてほしい。ラウンジ・生協・茨苑会館等での無線LANが出来たらよい
教科書を買うのが大変なので、もっと安く買えるような制度を作って頂きたい。高いお金を出して買っても講義であまり使われないとがっかりする。
専攻会室は、1つの選修ごとに1つの部屋を割り当ててほしい。
学生の中には、茨大生としての意識が低い人が多い気がする。国立大が県内に2つあるうち、茨大は特に教育面でとても素晴らしい活躍をしている。けれど、学生当人たちの自尊心がたりず、可能性を伸ばしきれていない所があるように感じる。大学側から学生達の自信を高めるような公告・働きかけをもっとしてほしいと思う。学生達が、茨大生であることをもっと誇れるような意識づくりが必要だと思う。

構内に車で入れるようにしてほしい。
駐車場をもっと増やしてほしい。
人文学部での履修の際、シラバス上履修できないことがある。私は、聴講生として無単位で先生の許可を得て受講したが、もう少し開放されたものでもよいのではないかと思う。
大学生協の開店時間をのばしてほしい。大学図書館を日曜日にも開館してほしい。
大学院に進学し、かつ博士課程まで進む学生に対する経済的な援助をするシステムの充実を図っていただければとおもいます。
家計に難がある学生に対して、奨学金2種と同等額の貸し付けを無利子でやっていただきたい。もしくは、成績優秀者に対して月に1~2万円の援助などを
駅から大学までのバスは結構高いと思う。大学のバスで毎日学生を送ってもらえればかなりの節約ができると思う。
図書館以外の学習室をつくってほしい。休日でも自由に理学部棟に入れるようにしてほしい。
学費の免除や無利子で借りることができる奨学金を増やしてほしい。
こんなアンケートしないでください。
車や自転車をもっと利用しやすくしてほしい。特に車。近くに駐車場所をとらせるのはどうか。マックスバリュースタイルにとめるなどマナーが悪い人の増加にもつながる。
コンビニを作してほしい。マックを作してほしい。
日曜も1部で良いので学校の施設を開放してほしい。
アルバイト募集のチラシ(生活生活課のところにある)を増やしてほしい。
授業料の負担を減らして、アルバイトの時間を減らし、その他の活動時間をもうけたい。
スポーツ活動が行える施設の充実。
車の駐車範囲の拡大。
部活動棟の建設、部活動への金銭援助等。
駐車マナーの指導。駐車スペースの通路にバイクを置く人がいて迷惑。
大学内の駐車場を学生にも使えるようにしてもらいたい。
平日は夕食を生協の食堂でとっているため、土日も今より営業時間をのばしてほしい。
人によってなのだが、学務の対応が悪くて本当に嫌だ。面倒って顔をされると落ち込む。忙しいのはよくわかるがもうすこし行きやすい雰囲気を作ってくれと有り難い。共通教育棟(奨学金とか部活動とかの所)の学務の方々は優しくっていつも親身に対応してくれる。ありがとうございます。
大学内で授乳できるスペースを設けること。
タバコを吸える場所を完全に隔離すること。
保健管理センターの充実(薬とかもっとほしい)
学食メニューをふやしてほしい
なぜ、キャンパスをわけたのでしょうか。
水戸通いという存在をなくしてほしい。2年から必修授業を始めたり、最低でも日立の必修と重なる日程をやめるなどいくらでも対応策はあるはず。
掲示板の情報をすべてデジタルデータ化して、インターネットで見られるようにしてほしい。学生呼び出しのみパスワードかければ大丈夫かと。
図書返却の延滞後に図書が借りれないのがこまる。
研究室に24時間入れるようにしてほしい。
就職支援など
経済面では困っている。就職する上で必要な資金を捻出すれば、アルバイト(必然的に)勉強時間が減る。結局就職できないことになりは無い状況。
大学のHPですべての掲示板内容が見られるようになってほしい。成績が学外で見られるようになってほしい。
学費免除などの制度を充実してほしいと感じる。
就職支援対策をもっと充実させてほしい。
就職関係について。
先輩がこわい。
大学生協の拡大。
トイレを全てウォッシュレットにしてほしい。
生協の値下げ。
値段の安さ。
自動車通学。
学務の方々もう少し親切にしてくれて良いのではないか。無愛想すぎる。
E棟女子トイレの紙が切れていることが多いのが困る。
エアコンを入れてほしい。
教室がきたないことがある。机上のらくがき。ゴミの散乱。ブラインドのよごれ。壁のよごれ。
昼休み時間が短い。

屋根付き駐輪場はほしい。
校舎南側の門が狭く自転車で通りにくい。
校舎北側の門がわかりにくく使いづらい。
生協の開店時間を水戸キャンパスのように8:30~にしてほしい。
生協(Coop)のPBを積極的に取り入れて安い商品を増やしてほしい。
カウンセリングの時間を増やしてほしい。午前中とか夜とかもしてほしい。
授業料を全額・半額免除だけでなく2割免除とかもしてほしい。
免除されるハードルを下げしてほしい。収入はあっても出ていくお金も多いので結局きつくなる。そのような場合、申請しても通らないので申請できない。このような状況をどうにかしてほしい。
大学生協のレジの増設。
生協食堂の低価格化。
女子大生が少ない。茨大サイコー。
学費免除について、「オリンピックに出た人等でないとありえません」と学務の人に返され、絶対に無理なものだと思っていた。そのため、授業に対するモチベーションが下がった。
サークル棟の使い方を見直すべき。
サークル棟で、運動部は人数が多いのに狭いロッカールームしかない。
部室が必要。
サークル棟で、部屋を与えられていても活動しているのかわからない所もあると思う。部屋でみんな、PSP等のゲームと、ホットプレートでぎょうざを焼いている姿を見かける。そんなことをするために、部屋は必要なのか。そのようなことは、サークル棟の部屋でやらなければいけないことなのか。
運動部活動をしていると荷物も多くなるので部屋がほしい。(雨の日など特に大変)
仕送りがなくアルバイトをしているが、授業料減免の家計収入に学生アルバイト代もカウントしてしまうのは、どうかとおもう。学業や課外活動で忙しい中、なんとか時間と労力を割って稼いでいるお金だ。アルバイトしている人が免除されずしていない人が免除されるのは少し問題に思う。人によって事情は様々だと思う。
成績による授業料免除などがあれば、経済的にも助かるし学習意欲も増す。
寮近辺に外灯がほしい。
就職活動時の企業情報をもっと増やしてほしい。
学校に車が駐車できるようにしてほしい。
授業料を安くしてほしい。
教科書を安くしてほしい。
教育学部棟2Fのパソコン室に印刷機を入れてほしい。
各選修ごとに専攻会室をつくってほしい。合同だと使いづらう。
学生生協の品物の値段が高い
パソコンについて学内で使用できるサービスを学外でも使用できるようにしてほしい。(成績を学外のパソコンから見られるようにする。)
食堂をもっと増やしてほしい
体育館にカーテンをつけてほしい。
学食の拡大。学生ラウンジ。
車で登校をみとめる。
アルバイトの供給量をふやしてほしい
図書館の利用時間の延長
授業に毎回15分以上遅刻している教員をなんとかしてほしい
駐車場をもっと広く、簡単に使わせてほしい
大学の設備が古い
もっとおいしい学食を
留学への援助。ヨーロッパに提携校がほしい。
地域(茨城周辺)の奨学金制度は多々あるのでそれ以外に途中で申請できる制度を取り入れてほしい
学生寮をもっと充実してほしい
奨学金をもっと充実してほしい
他学部の講義を受けやすい仕組みを作してほしい
経済面であまり余裕がないものの海外へ留学したいため、援助体制をもっと充実させ行きやすくしてほしい
勉強についてもっと大きく質問に答えてくれる所を紹介してほしい
学校周りの治安をもっとよくしてほしい。水戸はすごく悪いと思う。通学路にヤバイ映画館があるのはどうなっているのでしょうか。ポスターとかやめてほしい。先輩がキャバ嬢の勧誘を受けたり友人が変態男に声をかけられて執拗にメアドやテル番を聞かれたりした。

政府の事業仕分けによって大学への補助金の予算が縮減される見込みが高まり、今後の学生たちにとっても深刻な事態になると思う。
もっと施設を充実させてほしい等の要望はあるが、まずは、学生・教授が研究に集中できる環境をこれ以上こわさないでいただきたい。学長の声明にもあったように強い姿勢をもって各大学が協力し、この問題に向き合ってもらいたい。
進学支援や就職支援の充実。それに必要となるお金の援助。たとえば、説明会の参加にも大学側から補助金が出るなど。進学のための予備校・通信教育に対してももう少し補助は入るとうれしい。教科書類をもう少し割引してもらいたい。
食堂を広くしてほしい
バスの時刻を事業終わりに合わせてほしい
お弁当の値上げ反対
学費をもっと安くしてほしい
寮の一人部屋を作ってほしい
精神面での健康診断は毎年行うべき。就活時期に死にたくなる人が多いと思う。特に後半戦。それが面倒ならせめて保健センター等の利用を周知すべき
食堂をふやしてほしい
授業料免除や奨学金について、それらの制度で得たお金で「旅行に行く・新しいゲームを買う」といった声をよく聞き、学校関連サイトで目にする。学業成績にウエイトをかけてこういった不当な人になるべく排除して、学びたい人にもっとお金がいくように制度をみなおしをお願いする。ボーダーラインA以上くらいでないという意味がない。
卒論でヒアリング調査をする際に借りられるボイスレコーダーがほしい
学食の値段をもっと下げてほしい
研究室に配属された後、教員から不当な扱いがあったとしても外部からチェックしづらい。教員に指摘できる人間がいない。
不便なところにある
何か書いたところで変わるとは思っていない
こういう無駄なアンケートはやめてほしい。
部屋がきたない
快適一人部屋の寮
学内の様々な情報(掲示板に掲載されている予定等)を電子掲示板にも記載してもらおうとパソコン上から情報を得ることができ、便利になるとおもう。特にFSセンターの研究室に所属している場合、掲示板のところまで行く機会がほとんどなく不便だとおもう。
経済的に余裕がないため自分自身でアルバイトをすることでどうしても勉強時間が減るため成績が落ちる。そのために授業料免除申請を受けられなくなった場合悪循環となる。経済的支援をもっと考えてほしい。
就活についての情報をもっとほしい
人文棟のラウンジが理学部や教育学部棟などのラウンジよりも環境面で充実していない
水戸と日立の合併
すべてのトイレに薬用洗剤を完備してほしい
卒論研究費の予算をもっと増やしてほしい
弁当をもっと安くしてほしい
専攻会室がほしい
茨大正面行きのバスの本数が少ないから増やしてほしい
最近図書館の開館時間が大幅に伸びたことでとても助かっている。もっと開館時間を延ばしてほしい。寮は4人部屋の上色々なきまり事があり、1人の自由な時間が取りづらい。
各学部棟への夜間の出入り垣根を低くしてほしい。どこでその許可がもらえるかを学生に積極的に広報してほしい。
各学務スタッフの態度はなんとかならないか。カウンターに立っても誰も対応に立とうとしない。最近大学に近い店舗に職場体験に行った際も「茨大の学務の対応は醜い」という評判を聞きはずかしかった。お役所仕事もいかげんにしてほしい。
大学の先生は、エリートぞろい。「本当に家にお金がない」状況を知らない。バイトも生活のために必要でそれがなくて成績や単位どころか大学に行けなくなる。バイトしなければいけない学生のことを考えて、出席とかもっと考えてほしい。地方国立大にバイトしないで生活できる学生ばかりでないことぐらいわかるだろう。
図書館にもっと小説を
学業に集中出来るように大学の予算を増やしてほしい
来年度から農学部の寮を希望したいが、入寮生の募集人数が少なすぎるのと、入寮確定が2月で遅いので改善してほしい。
AIC(Call)が家のPCからもできるようにしてほしい

留学に関する奨学金で大学独特のものができたらうれしい
キャンパス統合。阿見から水戸へ来やすくなればよいと思う。
阿見寮の申し込みや決定時期の情報開示
キャンパス統合
サークル棟の増設
常陸太田市からの車通学だが、往復50kmかかる。大学近くに月極駐車場をかりているため4000円かかり、ガソリン代合わせると20000円ほどかかる。大学に車で入構駐車ができれば、4000円の負担がなくなる。遠方からの通学者には、開放してほしい
生協を拡充して、水戸のグリルや茨苑会館のような食事施設がほしい
日立キャンパス内のショップなどを充実させてほしい
学生生協や学食の商品をもっと学生に優しい値にしてほしい
トイレに手洗い用洗剤とゴミ箱を設置してほしい(機械工学科棟)
一般の学生が体育館を使用する場合、体育館を3ブロックに分けてどこを使用するか決めているが、工学部日立キャンパスの場合、3つの団体の使用ができないのはおかしい。
PCが少ない。PCの使える時間が少ない。もっとおそくまで使いたい
部屋が小さく、汚い(入寮している人から聞く情報は悪い)
図書館が寒すぎる
図書館・教室が寒い
学校付近のタクシーと教習車の運転・自転車の運転・夜間診療・阿見までの高速バス
農学部キャンパス内にATMがほしい
授業料免除を見直してほしい
バイトに時間をとられ勉強できない
車両入構の申請を学期のくぎりがいいときにしてほしい
冬期は、寒すぎる教室が、毎年2カ所は存在する。(E2棟101、102)暖房は、ケチらず使ってもらいたい
学校で自由に使えるパソコンが少ない
4年次は研究で時間がとられるため、アルバイトをする時間も減ってしまうので授業料免除を利用できればうれしい
質問が多すぎる。このアンケートはやめてほしい
生協の開店時間をはやめてほしい
分煙の強化(特に、建物入れ口での喫煙はやめてほしい)
寮の設備など老朽化しており、住んでみたいとは思えない。外国人の方などとの共同生活が大変そうであるので敬遠したくなる。一人でくらすには不便だ。
日立キャンパス内に郵便局のATMを設置してほしい
資格や編入試験に関する情報をもっとオープンにしてほしい
学務課の対応にかなり不満をおぼえた。学務課の人たちがもっとそういった情報を学生に提供し、学生がそういった情報にふれる機会を増やすといった努力をしてほしい
生協が狭くて使いにくい
学生からの不満が多すぎる教授は、会議を行い改善してほしい。最悪の場合は、解雇処分でもいい。
経済面フォローするサービスや制度の拡大
もっと教育学部のように工学部も学科ごとの飲み会やイベントをふやしてほしい。そういった機会がいまのところない。「大切なのは、友人をつくること」と工学部ガイダンスでさんざん言っているわりには、そういったことに消極的である。
おいしい学食
雨の日は、だれも車で通学できるようにしてほしい
牛丼を定番メニューにしてほしい
自習室を増やしてほしい。特に土・日・夜も利用できるようにしてほしい
図書館の蔵書の充実
研究設備の充実
学内に自由にいつでも入れるようにしてほしい
講堂の活用
地域への密着
授業料免除の書類が多めんどくさい。もっと簡単にしてほしい。アンケートもめんどくさい。学費を出して
学科の科目の難しさが違うので、授業料経費などを個別に定めるべき。
授業料免除について、特に生別の親の枠はなくしてほしい。連絡をとるのも困難であるから。
専門科目の授業が難

サークルで車を2台もっているのだが、駐車場を月4000円×2で負担が多きい。気球をやる上では車がないと活動できないので構内もしくは大学の中で安く置かせてほしい。先月車が壊れて廃車にしたので切実である
生協のコンビニ・学食など
交通費支給
生協の学食メニューが高い
アルクのネットアカデミーの充足
学外でも利用できるようなセキュリティの高いログインシステム導入
大学の生協が19:20に閉まるのは早い。大学周辺の定食屋がほしい
生協のコンビニは高い
食費において、大学生協での昼食が1番負担になる。もう少し安くしてほしい
学費免除を受けたいが、制度も手続の内容もくわしくわからず、免除を受けるためのハードルも高いのでどうかしてほしい。
教育学部パソコン室に印刷機をセットし、使用可能にしてほしい
教育学部自習室を復活させてほしい
教育学部A棟・D棟奥の駐輪場がきちんと駐車できるようにロープなどで区切ってほしい
大学内に学生も駐車できるスペースを作ってほしい。月4000円～5000円料金を取られるパーキングが多いので学生には少々きつい
ライブキャンパスの見方がわかりづらいのでの少し見やすいように改良してほしい
授業料の免除も多くするか授業料を減らしてほしい
図書館の勉強のスペースを増やすなど、空間をもっと快適にしてほしい
パソコンを増やしてほしい
就活生に対する交通費サポート
阿見のどこかに飲料水飲み場がほしい
学食の時間を夕方もやってほしい
学食・生協がもっと安くなればいい
銀行ATMを設置してほしい
授業料免除制度
就活サポート
茨大サイトの電子掲示板がきちんと機能してほしい
大学構内のバイク移動を自由にしてほしい
授業料免除の選考をもっと拡大してほしい
体育館を使える時間を多くしてほしい
福祉面が著しく乏しい大学だ
学務の方々もう少し親切にしてくれて良いのではないかな。
学務の対応が悪い。学生相手だからなめすぎ
図書館のエアコンをちゃんとしてほしい。パソコン室が暑い。勉強室がうるさい。
学食の値段を安くしてほしい
授業料免除を申請したけど、半額しか免除されずとても苦しい。全額免除が半額免除になりその理由を大学から説明がなかった
履修申告を家庭のパソコンで出来ると便利だと思う
卒業に必要な単位を修得しているかをパソコンでみられるようにすべき
学科の消滅もしくは異学科との交流授業の場をもっと多く提供してほしい
出席カードの廃止
大学内の駐車場を利用できるようにしてもらいたい。公共交通機関を利用すると、どうしても電車やバスの時間にしばられてしまい時間がもったいない。利用したい人には利用できるようにしてもらいたい
日立キャンパスの周りに何も無いから、せめてキャンパス内には、Caféや何らかの集まれる場所があると夜遅くまでうれしい。
工学部では、学科・学年をMixして交流できる事・場所の必要性を強く感じる
授業料免除の申請について、父の病気にお金がかかっているが、後で保険等で返ってくる分などがあり、実際の収入額が具体的に挙げにくい状態。それにうまく対応できるような申請の申し込み用紙を作ってほしい
就職についての情報。現在あるサービスなどの知らせや紹介
図書館の休日会館時間の延長
図書館の所蔵雑誌の充実
学割発行機が休日でも使えるようになること
授業で参考書以外に費用が必要ということを減らしてほしい
生協の営業時間をもう少し延長してほしい

論文検索サイトの登録数を増やして、卒論がより良いものになるように工夫してほしい
生協書店の充実
コインロッカーの設置
プリンターをもっと使いやすくしてほしい
授業料に対して学業成績による特待生制度を行ってほしい(経済的な面を除いて)(留学などを考えると余裕がないため)
生協食堂が案外高い
パソコンのある部屋に全て印刷機をつけてほしい
授業料の免除対象者をもう少し増やしてほしい
生協の商品の値段をもう少し下げてほしい
図書館がうるさいので対策のお願い
日立キャンパスにおける食堂の充実
工学部の卒業要件とJABEEの対応がちぐはぐすぎてJABEEが不安。JABEEと卒業要件をもっと対応がわかりやすくしてほしい。また、学務の人もこれに答えられない状況。どうにかしてほしい
大学で働く職員や教授に道徳を学ばせるべき。いつも人としてどうかと思う
奨学金制度をもう少し充実させてほしい
学務の対応が悪いのは、水戸のどこの部所に言えばいいのか。就活関連の職員の対応が不明確な場合がある
就活の相談が火曜なのはおかしい。授業があり行きたくてもいけない
学務の対応をもっとしっかり行ってほしい。不十分な解答の時があった
部活動の活性化。
集中講義が平日にあって通常授業に支障がでたのは、工夫して集中講義をずらしてほしい
1人1部屋の学生寮を建ててほしい
無料で利用できる学内カウンセラーの導入
給付制の奨学金をもっとふやしてほしい
外部の大学院進学のための個人的な相談をじっくりできるようにしてほしい
トイレ(便座タイプ)の個室に消毒用のクリーナーがあるといい
電子掲示板のPPTファイルはやめてほしい
授業料免除の対象がパンフレットを見ただけではわかりづらく、自分は対象内ではないと思う人が沢山いると思う。パンフレットの対象者の説明をもっと明確にするのとガイダンスなどを行ってもらえると沢山の人が少しでも楽になれる自分も対象外と思い前期申請せず、友達で免除を受けている人に話を聞いたなら自分も対象内であり、前期分苦労した学費を下げてもらえるなら経済的に助かる
授業の内容・掲示板。教育実習自宅生とても不利な気がする。とくに実習
学校内で、もっと飲食店を増やしてほしい。
駐車場をもっとたくさん自由に使えるようにしてほしい
なにか、イベントが多かったら楽しい
図書館。生協などの利用可能時間の拡大
講義数を増やしてほしい
奨学金制度がもっと多くなったらいいと思う
経済的支援のお願い
パソコンを自由に使える場所をもっとほしい
サークル棟横の駐輪場の水はけは非常に悪いので改善してほしい
アルバイトの悪条件を改善する方法を教えてください
睡眠スペースの確保
食堂のご飯をいつでも食べられる年間パスポート的なもの。10万円くらいで
図書館の開いている時間を1時間増やしてほしい
授業料免除の選考基準があいまいでわかりにくいのもっと具体的にしてほしい。また、周知できるようにしてほしい
授業料をもう少しやすくしてほしいがこのままでいい。
喫煙所をきちんと作ってほしい。減らしすぎてバランスが悪い。屋内に。
人文学部学部棟にラウンジがほしい。ロッカーがほしい
駐車場を学生も使えるようにしてほしい
このアンケートは両親がいない人は、両親とも働いているかという問いに答えられない。同棲していて家賃を払っていない人がいる。
履修申告票の出身高校のところに県しか書いていないにはおかしい。北海道と東京都と大阪府と京都府の人をないがしろにしている。都道府県と書くべきである
大学生の新聞割引キャンペーン
授業料が高く一人で払うのはつらい
成績を管理しているパソコンのシステムがちゃんと機能していない。使いづらい

駐輪場が少なく不便
茨苑会館側の門を閉じないでほしい
授業料全額・半額免除制度における学業成績の重視と経済的基準の緩和
図書館の設備(蔵書数・パソコンルーム)をもっと充実させてほしい。あまりきれいでなく入りづらいイメージがある
バイク入構を許可してほしい。また、バイクの駐輪場を増やしてほしい
屋内に喫煙所を設置してほしい
休み時間が短い
他の大学とのかかわりがない。常磐大学・筑波大学などと一緒のイベントをやるとかもっとあってほしい
就職ガイダンスの教室が毎回狭すぎる。講堂を使うとか、学年わけとかの対策を取ってほしい
奨学金の件で、現在の社会状況からして4年間奨学金を借り続け本当に返せるか不安である。将来就職できるという保証はない中で厳しい状況。奨学金といえども利子つきの借金と同じ。給付型無利子の奨学金制度の確立
車で入構できるようにしてほしい
生協の学食の値段を下げてほしい
学費免除
理学部棟の音姫が使えなかったのがなんとかしてほしい
体育館のトイレがきたない
机の横にカバンをかけられるフックがほしい
学食をもっと安くしてほしい
学食が狭い少し量より高い気がする
大学内に病院がほしい
プリンターをふやしてほしい。図書館は混むので土・日もプリントアウトしたい
大学の先生の教え方をどうにかしてほしい(DVDを見るだけ。板書が汚くてよめない)
以前テレビで見たが、学内のコピー機が無料になるもの(用紙の裏が公告になっているもの)を導入してもらえるとありがたいと思う。また、奨学金を使って学費を払っている人に関しては、もっと授業料免除を広めてほしい
バイクで通学しているが、バイクに乗る際に使うジャケット類をバイクの上に置いていくのは不安で持ち歩いている。学生用貸ロッカーがあると便利だと思う。一カ月契約とかでカギをはずけ、身分を明らかにした上で使用できるようにしたらいいと思う。一回ジャケットを盗まれたので。利用料を払っても借りる人はいると思う
学食を安く、量を多く、営業時間を長くしてほしい
授業料免除についてもっとわかりやすい情報がほしい
自由に使える掃除用具がほしい。
教室内をきれいにしてほしい。人文棟は汚れが多い。
学習のための本を限定でもいいから安くしてほしい。授業料免除よりも効果的だと思う
共通教育棟と人文講義棟の間を通る通路あたりに駐輪された自転車が多くの車両の通行を妨害してしまっている。学生のマナーの問題でもあるが大学側で何か手を打てるならと思う
授業料免除の制度を詳しく知らなかったのがわかりやすく通知してほしい
サークル棟の24時間開放
もっと図書館に本を保管できるよう増築してほしい。書庫の本棚が飽和状態になってひどい扱いを受ける本が多い
生協の値段が高い
駐車場を整備してほしい。大学の周りの駐車場は高いし、毎日来ないともったいない
生協の営業時間(特に書籍部・コンビニ)の拡大。
図書館の利用可能時間の拡大
留学を希望する学生への資金的援助
全額から半額に後期に免除がかわり理由が知りたい
もっと職員の給料を上げるべきだ
母子家庭で経済的に豊かではないので、それなりのサービスがあればいいと思う
就職支援
バイクで入構したい
授業料免除をさかのぼって免除してもらえる制度がほしい。1年から4年前期まで免除制度をしらず、奨学金を借り、多額の教育ローンを借り銀行の残高もマイナスという状況で返済できるか不安である
教員免許の取得にかかる費用が莫大。教育実習受入校への謝礼金、介護体験にかかる費用がかかるのでお金がないと免許もとれないかと思うと不安。改善してほしい
駐輪場のスペースが少なすぎる。(特に共通棟前)

学内での無線LAN(図書館など)もっと自由に使いたい。IT基盤センターに行って説明してもらったが接続できなかった
人文棟内でも無線LANが使えるようにしてほしい。コース室でインターネットに接続できれば、わざわざ理学部棟や図書館に行く手間がはぶけ便利である。
授業料の半額免除の対象を、成績優秀者にウエイトをおいてほしい。成績がよくても両親の収入ではじかれてしまうのは、全額・半額免除を受けている人でも成績が平均並の人と比べて不公平に感じる
親の収入が多いことで子が奨学金を受給できないのは意味がわからない。
もう少し学食を安くしてほしい。生協で売っている弁当の値段を下げるか量を増やしてほしい
学生寮に入寮したい
学食と生協を安くしてほしい。ミールカードを導入してほしい
学食の低価格化。ミールカード導入
ALCを学校以外でもできるようにしてほしい
大学図書館を24時間開いてほしい。他の大学図書館は24時間やっているところがある
学内に駐輪場がもっとほしい
教科書の購入にも補助がある(中古販売・10%以上の割引など)
生活をサポートする情報提供
土曜日も校舎を開放してほしい。家より学校の方が勉強に集中できる。図書館では、落ち着かないので
教育A棟2Fパソコンルームに印刷機を導入してほしい。図書館の人工密度も緩和すると思う
構内の駐輪場をもっと使いやすくしてほしい
生協の充実(混んでいる・おいしくない)
授業後のアンケートの紙の資源の無駄
教育A棟2Fパソコン室のプリンタが使えるようにしてほしい
大学内でのたばこを吸う場所を、共通棟の入口とかじゃなくもっと他の人と関係のない遠い場所にしてほしい
自宅パソコンからでも成績が見られるようにしてほしい
きれいにしてほしい(緑をふやす・改装など)
設備・機器の充実化
大学で車を駐車できる場所がほしい
学生用駐車スペースを作ってほしい
車で通学できるようにしてほしい
家計支援者は自分自身である。不動産を所有しておりそこから不労収入で生計を立てている
学内でパソコンが使える時間の延長
人文学部生にロッカーなどが無いので不便
アルバイトの紹介・就職の説明・お湯がほしい・うがいする場所がほしい・雨の時に食べる所がほしい・ロッカーがほしい
教科書・教材費が高い
駐輪場の拡大
共通棟・教育D棟の改修
図書館の蔵書数の増加・時間延長
印刷できる場所をもう少し増やしてほしい
バス代が高くて困っている
成績優秀な学生に対し授業料の免除
いきなり授業が休講になっていることがあり、掲示日を見ると当日になっている。教員の健康上しかたないかもしれないがやめてほしい。同じ授業で3回あった。教員側の落ち度なのだから補講は入れないでほしい
休講通知はせめて前日にだしてほしい。当日でている時があるので困る
部活していて、冬の期間は暗くなるのが早いのでライトをつけてほしい
図書館の充実・食堂の充実
図書館の充実。文献がもっと探しやすくなること
理学部のように4年生は夜間でも人文棟に入れるようにしてほしい
食料品の値段を安くしてほしい
大学生協の割引・食堂の割引
手を洗ったりするトイレ以外の水道がほしい
RENANDIを活用している科目がないから、もっと授業内でもRENANDIを出してもらえれば助けになる。せっかくRENANDIがあるのに、学期中を通して一度も使わないのが大半なのでもったいない
学食の価格をもう少し安く
学食の価格は下がらないのか

学生駐車の設置
生協コンビニの営業時間の延長・商品充実
学食が狭い
図書館の延長
学生割引のきく旅行パックやレジャーパックをもっと広げてほしい
学生が地味すぎる。もっと色々な事業に参加し、茨城大学の名前と良さをアピールしてほしい。他大学と比べて茨城大学は、あまりに活動的でない
大学専用のバスがあると助かる。交通費がかかる
人文学部棟の教室が汚いので、こまめに掃除をしてほしい
学食を広くしてほしい
図書館の充実・食堂をもっと広く充実させてほしい
奨学金が学年によって取りにくくなるということがなくなってほしい
図書館をもっと充実してほしい
講義によって成績評価が極端に違いすぎる
貸与型奨学金や給付型奨学金の拡充
大学利用案内(学内パンフレット)などをつくり学生にできること・できないこと周知すべき
研究室配属の日程や卒論のやり方などもっと詳しく知らせるべき。学会・研究機関などを把握しやすいような一覧表リストなど
土日や休業期間中の図書館の利用時間が短くて困るので延長してほしい
日立でも講義を開講してほしい(必修科目)
一年生の図書館の借りる期間をもっとふやしてほしい
生協の営業時間をもっと遅くませ延ばしてほしい
建物をきれいに
学校主体のアルバイトを増やしてほしい
休講などの通知を電子掲示板などWEB上で確認できるようにしてほしい
4年次は基本前期の単位が0であるため問27～29は修正する必要がある
就活支援の充実
駐車場の整備・グラウンドや体育館の簡単な貸し出し
生協もリニューアルしてほしい
講堂の存在がもったいない(サークル・ライブ・練習など)につかいたい。工事はどうなっているのか
学校として提供する情報に力がない。学生にもっと多くの場を提供する場をつくってほしい
バイクの駐車を理学部側につくってほしい
正門・西門とか歩行者用の道をつくってほしい
休講についての掲示が遅い。掃除の方の態度と口が悪すぎる
両親が共働きなので、授業料免除や奨学金申請資格にあわないが、弟が私大に行っているのを考慮してほしい
経済的にあまり余裕はないが、大学院への進学を希望している。そのため、授業料免除制度の充実や、アルバイトをする時間ができるように時間割などのぞむ
休日も西門・北門を開けてほしい
学生寮の部屋を増やす。学校経営の学生マンションなど家賃安く
屋根つきの駐輪場がほしい
工農のキャンパスが離れているのでなんとかしてほしい。大学の保育所がほしい
民主党が政権をにぎるのを止めること。政治家の50%を理系の出身者にすること
学部生でも休日中に校内に入れるようにしてほしい
駐車を増やして学部生でも車で通学できるようにしてほしい
駐輪場をもっと広くしてほしい
授業がわからないので希望者への補習などしてほしい
就職支援の充実
歩きタバコ禁止
阿見キャンパスにATMを設置してほしい
阿見キャンパス図書館の本を増やしてほしい
就職情報
就職・進学情報を充実・アルバイト情報の提供
駐輪場をふやしてほしい
コインで使えるコピー機を生協と図書館以外にも、各学部においてほしい
休日に裏門や西門が開いていないと不便
学費はそのままでもいいが、入学金を安くしてほしい
学費免除の予算UP

出席に関して厳しい。場合によっては、出席できないこともあるし単位取得のための学習時間は本人の責任のもと管理できるはず。出席は、絶対基準ではなく参考基準くらいにとどめてほしい
授業料免除の審査に通らなかった理由の開示
駐輪場の拡張
生協への傘袋の設置
社会勉強法としてバイトすることを何らかの分野の単位として認めてほしい
大学に車で入る際に毎回許可をとるのがめんどろ
学校側が部活やサークルに無関心
自転車置き場の充実
理学部棟をPM:6時以降や、土日もあけてほしい
屋根付き駐輪場
専門科目(特に必修)の講義を午前中に集中しないようにしてほしい。
授業料免除の予算を増やしてほしい
教科書の値段が高いため必要なくなった人からのレンタル化ができるようにしてほしい
就職協定を復活させてほしい
図書館前の駐輪場のスペースを広げてほしい
駐輪場の整備
学割・証明書発行機の24時間化
授業料が他国の大学に比べ高い
構内での車の運転マナーが最悪。特に徐行運転
アルバイトの募集地域拡大
医療センターの内容充実
タバコを吸う場所を限定してほしい
事業仕分けをやるべき
学務係をもっと伺いやすくしてほしい
人文棟の掲示板にもう少し4年生への官告を載せてほしい(卒論関係)
寒い教室があるので暖房機は大きな部屋にはもっと必要
アルバイトで農学部生が差別がある(短期バイトしかない)
自転車の駐輪場所をふやしてほしい
部活の遠征費がかかるので大学に援助してほしい(剣道部)
ALCを学外でもできるようにしてほしい
駐輪場をもっと設置してほしい
プリンターの数を増やす。
情報をもっと分かりやすく伝えてほしい
生協をもっと安くしてほしい
1年生でも学校内に車で入構できるように
夜遅くまで学校に残らなければならないとき、駐車場がないのでこまる
学務の態度が悪いから行きづらい
授業料の減額
共通教育前にある掲示をネットでも見ることが可能してほしい
コンピュータC606の学生への周知。人文棟のコンピュータのルールの緩和。
説明不足の解消
茨大・茨大院進学の入學免除
社会人向けの内容削減
入学当初換気扇フィルターを買わされたが、詐欺だったことがわかった。入学後すぐ学校側から学生に周知してほしい
各学部又は学科ごとにLAN端末及び無線LANの設置がほしい
教育学部に理学部みたい多くなくていいのでPCを置いてほしい
館内に自動販売機を1つずつ設置してほしい
各掲示板に貼ってあるものをREIVANOI又は何らかの方法で公開してほしい。